

2015 年度第 3 回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2016 年（平成 28 年）1 月 30 日（土）

開催会場：羽島市役所市民会館第 1 会議室（岐阜県羽島市）

－議題－

1. 個人情報について
2. インカレロング女子選手権競技者数について
3. 後援大会規約の作成について
4. 目安箱について
5. 日本学連活動報告書について
6. 賛助会員登録について
7. 春インカレについて
8. インカレスプリント・ロングについて
9. テレイン使用申請の書式と方法の見直し
10. 事業計画報告
11. 地図会計について
12. 新機軸事業について
13. 事務局関連費用について
14. 事務局移転の検討
15. 後援申請報告
16. 会計について
17. スキーオリエンテーリング委員会報告
18. 技術委員会報告
19. 理事会報告
20. 各部局活動報告
21. 地区学連活動報告
22. 次回幹事会について

－出席者－（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
木村 佳司	インカレロング・JOA 担当・スキーOL 委員会委員長	山口大学卒
大西 康平	技術委員会委員長	京都大学卒
海老 成直	理事・インカレミドル・リレー担当	中央大学卒
齋藤 翔太	理事・地図会計担当	一橋大学卒

五味 あずさ	幹事長	金沢大学
村瀬 貴紀	副幹事長	筑波大学
大久保 宗典	会計	東京大学
築地 孝和	事業部長	神戸大学
田中 悠	広報部長	慶應義塾大学
高橋 秀明	広報部局員 Web 改修担当	金沢大学
坂野 翔哉	次期広報部長	東京理科大学
新粥 文哉	事務部長	千葉大学
吉澤 佳奈	次期事務局長	日本女子大学
細 正隆	普及部長	東北大学
橋場 良太	渉外部長	東北大学
堀江 優貴	次期渉外部長	東北大学
田口 茂樹	会計監査	岩手大学
田中 基成	会計監査	筑波大学
藤田 麻矢	北東学連幹事長	岩手大学
田中 求	北信越学連幹事長	金沢大学
高田 和樹	次期北信越学連幹事長	新潟大学
小泉 知貴	関東学連幹事長	慶應義塾大学
瀬川 出	次期関東学連幹事長	東京大学
石山 良太	東海学連幹事長	名古屋大学
横田 智也	次期東海学連幹事長	名古屋大学
松浦 友佑	関西学連幹事長	大阪大学
中村 哲	次期関西学連幹事長	京都大学
下江 裕貴	中四国九州学連幹事長	広島大学

議事録作成：田中 悠（広報部長・慶應義塾）

この議事録において、特に断りが無い限り
 学連 日本学連
 加盟員 日本学連の加盟員
 の意味で使用することとする。

時間の無い方は各項目の (i) 背景、(ii) 議論の概要、(iii) 結論 をお読み頂きたい。

1. 個人情報について	
<p>－背景－</p> <p>ラップセンターに掲載されている個人情報(氏名, 大学名)が理由で就職活動に影響が生じた、という匿名連絡が関東学連に寄せられた。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>ラップセンターに個人情報が掲載されることに否定的な意見を受け、関東学連から対応案が提示された。提示された対応案をもとに協議を行い、幹事会としてはどう対応するか決定した。</p>	
<p>－結論－</p> <p>幹事会としての対応は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報のウェブ掲載が気になる場合は、各自で関係者に削除依頼してほしい、ということ を学連から加盟員に周知する。 ・ 大会個人記録はラップセンターに掲載され、掲載が気になる方は管理者に連絡をしてほしい、という旨を各大学主催大会のプログラムに記載するよう、学連が加盟校に願います。 	
<p>－発言内容－ (敬称略)</p>	
小泉	<p>ラップセンターに大学名と氏名の個人情報が掲載されていて、就職活動に不利だったため削除してほしい、との匿名連絡が関東学連ホームページに寄せられた。この連絡を受け関東学連総会で話し合ったところ、今すぐに削除するということは不可能であり、そもそも削除する範囲を決めるのも難しいため、すぐには対応しないという決議になった。そこで、ラップセンターに個人情報が載っていることについて、何か意見が無いかどうかを関東学連加盟校から聞いたところ、ラップセンターに名前などがずっと載ったままの状態は嫌だという意見も挙がった。それに対し、関東学連で何らかの措置を取ろうということになり、関東学連で対応案をまとめたので、日本学連幹事会に対して個人情報に関する提案をさせてもらいたい。ラップセンターに氏名と大学名の両方が載せられているのが問題ということであるため、具体的な提案の1つとしては、ラップセンターのデータを定期的に削除する案が挙げられる。例えば、2ヶ月経過したらデータを削除する等である。もう一つは、ラップセンターに入る際にパスワードをかけるという案が挙げられる。ラップセンターのデータを削除するということは私自身やりすぎかなという思いがあるが、パスワード化くらいは、個人情報に対して疑問を持っている人がいるならば、必要かと思う。ただ、このようにして規制する場合の論点の一つとして、規制範囲が不明瞭であることが挙げられる。例えば関東学連主催行事のラップデータのみ規制するのか、または日本学連主催行事のラップデータまで規制するか、それとも日本のオリエンテーリング全体の行事のラップデータまで規制するのかと、規制範囲が不明瞭である。また、そもそもラップデータだけではなく、プログラムに氏名等が載っていることも問題になる可能性があるため、規制をかける対象がラップセンターだけで良いのかという問題がもう一つの論点である。また、削除や規制の期間をどうするかという問題や、パスワード化した場合にパスワ</p>

	<p>ードの周知方法をどうするか、削除する管理者をどうするかという問題も挙げられる。その他、ラップデータ削除やパスワード化以外にも、何か良い方法があれば意見を募りたい。以上、個人情報に関する関東学連からの提案である。</p>
五味	<p>まず、オリエンテーリング競技の結果や、プログラムに記載する個人情報に対する規制が必要かどうかという議論をし、パスワード等の実用的な部分についてはこの議論の後にすれば良いだろう。</p>
大久保	<p>どう不利になった等の情報はあったのか。</p>
坂野	<p>不利とは言っていないが、影響があったと言っている。</p>
小泉	<p>影響があったということは、不利になったということと同義だろう。あまり良くない成績が公開されて不利があったということではないだろうか。例えば、オリエンテーリングを始めてみたものの、合わないと感じ、やめてしまった人がいたとして、その人のあまり良くない成績がずっと残っていて、面接などでオリエンテーリングをやっていたことに言及された場合は、確かに不利になる可能性はあると思う。</p>
田中(基)	<p>そうだとすると、自分の身の上の話だから、不利も何も事実なのではないかと思ってしまうが。</p>
松浦	<p>個人のラップデータが検索に引っかからないようにすることはできないのだろうか。恐らく、個人のラップデータが企業担当者に知られる理由としては、名前を検索した時に、ラップセンターの名前が検索に引っかかるからだと思う。それが無ければわざわざラップセンターに個人のデータを探しに行くことは無いだろう。</p>
五味	<p>1つ問題があって、ラップセンターは日本学連のものではないので、私たちがラップセンターを直接いじることはできない。私たちが関与できるのはインカレ以下、日本学連及び地区学連が主管主催のものである。後援大会については、主催ではないため関与できないだろう。どちらかという、本人が大会主催者側に個人情報を載せないでほしいと申請する方が妥当ではないかと思う。</p>
木村	<p>私の記憶が正しければ、氏名、性別、年齢までは個人情報に当たらないはずである。そこから以下、例えば、どこに住んでいるとか、どこの大学に通っているとかという個人の属性に関する情報は個人情報となる。スポーツの要件として、氏名と性別と年齢は原則公開である。学連が主催するインカレの様なオフィシャルのスポーツでは、匿名で公開することはあまり一般的ではない。例えば、市民マラソン等といったものはパスワードを入れないと記録が見られないことも多いが、陸連主催のマラソン等では、特に上位は全公開に近い形になっているはずである。</p>
高橋	<p>以前、個人情報の保護理念のようなものを決めた時に、本連盟でいう個人情報は住所、氏名、性別、年齢、生年月日、電話番号、Eメールアドレス、学連登録番号、JOA競技者番号、所属大学・クラブ名等であると定めたと思うが。</p>
五味	<p>それは、学連登録の際の個人情報を指していると思われる。</p>
高橋	<p>この個人情報の定義は、学連登録時だけのものなのだろうか。</p>

五味	それは公開云々に当てはまるのだろうか。
高橋	確かに、JOA 競技者番号等は公開されている(ため、先程の個人情報の定義は、学連登録時に関するもののようだ)。
大西	ちなみに、インターネットで検索した場合に引っかからないウェブの形式等を知っている人はいるか。ラップセンターがHTML形式で書かれているから、自分の名前を検索するとトップに出てくるという状況になっている。それを変えないとどうしようもないとは思ふ。
新粥	セレクションの時に同意書を書くと思うが、そこで氏名・年齢・大学名を公開することにも同意してもらえば良いのではないか。各大学・クラブ主催大会に関しては個々の大会にお願いするとして、学連主催のものについては直接関与可能だと思う。
五味	各大会が、大会中の写真を公開しますとお知らせするような流れと同じだと思う。
新粥	インカレに関しては、現在同意書は無いが、今後各大学に記入をお願いすることはできる。
小泉	そこまでやらなくても、プログラムの注意事項に結果をラップセンターに掲載する旨を書き、掲載が嫌ならば連絡をしてほしいと記載をすれば良いと思う。特に連絡が無ければ、掲載に同意したと見なして良いだろう。
木村	基本的にはその考え方で良いと思う。募集要項、インカレで言うと要項2において、個人情報は公開するという記載をすることで、法的に主催者側には瑕疵が無いということになる。そうしないと、主催者側の負担が増えてきてしまう。
五味	募集要項の時点で、個人情報に関する注意書きを加えるということで良いだろう。
小泉	募集要項に記載することを周知することも必要だと思うのだが。
五味	どの範囲の大会まで募集要項に個人情報の記載をするか決めるのが先だと思う。匿名で意見を下さった人は、関東学連主催の大会データに関して規制をしてほしいから関東学連に連絡したというよりは、連絡先として関東学連を選んだだけだと思う。
小泉	恐らくそうだと思う。
五味	そもそも、これは個人の一意見と捉えて良いのだろうか。
木村	現代において重要な話だと思うが、運用側に立った場合、現実的には一意見と捉えざるを得ないだろう。今回のような意見に対して、声は挙げていないが、ラップセンターを見たいという意見は多数あるわけで、そういう人たちに対するサービスを切ってしまうて良いのかという問題がある。削除するという事は出来ると思うが、削除する場合は基本的に全削除になる。声の上がない大きな需要を優先するか、削除してほしいと一つ挙げた声を優先するか、という難しい問題になってしまう。運営側としては、記録は残しておきたいという気持ちでやっているため、今回のような意見にどう応えるかは難しいところである。今のところは納得いただく他無いかと思う。私自身沢山のイベントを主催しているが、個人情報については同意したものと申し込みをする形を取っている。直接、削除依頼が来ることは稀にあるが、それはあくまで個別に対応していて、大きな手間ではない。

五味	個別の削除依頼に関しては、その人を特定できる情報を消すことで対応しているのか。
木村	その人の名前だけ消すといった様に対応している。手間ではあるが、そのような依頼は殆どない。過去10年間で1人か2人くらいである。
小泉	対応としてはそれで良いと思うが、意見を言ってくれた方の要望としては広い範囲で個人情報を規制してほしいということだと思うので、学連のみに範囲を留めず、募集要項に個人情報に関する記載をするよう促してほしいとJOAに提言するのが良いのではないか。
木村	JOAもJOA主催大会にしか関与できず、オリエンテーリング行事の95%程度が学連主催でも、JOA主催でもないので、個人情報への配慮をオリエンテーリング界に「お願い」という形にしかできない。
田中(基)	全体の流れとしては、プログラムに個人情報に関する記載をするという形にして、それに加えて、ラップセンター管理者に依頼して、掲載を希望しない方は主催大会に連絡下さい、といったような案内をラップセンターのトップページに載せると良いのではないか。
小泉	方針としては、募集要項に個人情報に関する記載をするよう促す、プログラム若しくはラップセンターに、削除してほしい場合は連絡を下さいといった旨の記載をする、という2点を周知するので良いと思う。やはり、募集要項に個人情報に関する記載をすることに関して、JOAからオリエンテーリング界に促してもらうように依頼する必要はあるだろうか。
五味	学連主催の大会なら、学連としてプログラムへの記載ができ、各大学主催大会なら学連から「お願い」という形で、プログラムへの記載を促すことができる。学生が関与しない地域クラブ主催の大会に関しては、JOAからプログラムへの記載を促してもらえよう学連が依頼する、ということで良いだろう。
海老	大会の個人情報に限らず、世の中の話でいうと、例えば自分の名前が検索に引っかかるのが嫌だとしたら、その個人が削除依頼をするというのが、良いか悪いかは別として普通となっている。嫌ならば言ってほしいということ、その意見をくれた方に周知する方が、それぞれの大会に先ほどのような対応をしてもらうよりも実現度が高いと思う。過去の情報も含めて個人情報が載ることが嫌ならば、今のところ、個人的にそれを削除してもらう以外方法は無いとは思っている。寧ろ、そのことを加盟員に周知する方が良いと思う。
五味	募集要項に書いたところで、今のラップセンターの現状が変わるわけではないので、記録が残らないようにしたいならば、学生本人が個人的に削除依頼するという形で良いだろう。加盟校に大会プログラムへの個人情報に関する記載をお願いすると共に、個人情報のウェブ掲載が気になる場合は各自で関係者に削除依頼してほしい、ということ加盟員に周知すれば良いだろう。個人情報について他に意見が無ければ、ここで終わりにしたい。

2. インカレロング女子選手権競技者数について

－背景－

第 63 回総会において、インカレロング女子選手権競技者数の削減に関して、総会では決議を行わず、さらに議論を深めるべきという結論になった。その後、競技者数削減に関するアンケートを取った結果、回答大学数は 17 校で、削減に賛成する加盟校が 7 校、反対する加盟校が 9 校となった。

－議論の概要－

女子選手権競技者数削減に賛成する加盟校と、反対する加盟校との間での議論が深まったとは言いがたい状況であったため、議論を深める方法を討議した。女子選手権競技者数削減に対する幹事会としての意見を明示し、反対意見に対する幹事会の意見も提示することによって、議論を深めようということとなった。

－結論－

以下の事項を盛り込んだ文書を作成する。

- ・女子選手権者数が 30 人であるべき基本的な根拠としては次の 2 点が挙げられる。
 - ①加盟員の男女比 2:1 に準じて、男子 60 人に対し女子 30 人としている。
 - ②30 人に削減することによって下位層のトップに対するタイム比率を小さくし、コースに対する制約や運営負担をなくせる。
- ・女子選手権競技者数削減に反対する理由として、モチベーションが下がる、エリートが輩出できない大学がある、という意見をいただくが、それらに対して幹事会の意見は次のようになった。
 - ①エリートが輩出できない大学があるのは、理論上仕方が無いことである。
 - ②個々の選手に努力してもらうべきである。
- ・枠の数の新しい決め方についての案があれば活発に発議してほしい。

上記を盛り込んだ文書を加盟員に提示・公開した上、もう一度女子選手権競技者数削減について各加盟校内で議論してもらい、次回総会で決議を取る形とする。次回総会で競技者数削減が承認された場合、その場で規約自体も決議して、来年度インカレロングの人数を変更する予定である。

来年度インカレロング女子選手権の枠を計算する際は、前年度ロング女子選手権 40 位中 20 位という基準を採用する。また、次期幹事会では、規約の改正案の確認を行う。

－発言内容－（敬称略）

五味	前回のインカレロング後の総会において、インカレロング女子選手権競技者数の削減に関しては意見を深めるべきという結論になり、再度、競技者数削減に関するアンケートを取った。しかし、インカレロングを挟んで、ただもう一度アンケートを取り直したような形となっていて、各大学の意見が殆ど変わらなかったというのが現状である。回答数は 17 校で、削減に賛成が 7 校、反対が 9 校という形になった。また、競技者数固定に賛成が 10 校、反対が 5 校であった。回答数が少ないのもあって以前のアンケート結果と
----	--

	<p>は(見かけは)異なっている(が反対数についてはほぼ変わっていない。)総会で議論を深めるという結論に至ったが、ここで問題になってくるのは、どのように議論を深めていくかということである。恐らく、今回の結果を加盟員に公開して、もう一度アンケートを取り直ただけでは議論は何も深まらない。ただ同じアンケートを繰り返しているだけになるかと思う。以前メール上で小泉君が提言してくれたように、競技者数削減に関する論点を洗い出すことが必要である。論点を洗い出した上で、賛成派と反対派の意見の相違について加盟校に公開してもう一度アンケートを取り、春インカレの総会で決議を取るというプロセスを経れば、議論が深まるのではないかと思う。</p>
大西	<p>インカレミドル選手権競技者数に関して幹事会で話し合い、ミドル選手権競技者数を男子 60 人、女子 30 人と決定したが、その議論の際にインカレロング選手権競技者数を変えた方が良いという話が挙がった。今回の話はそこが発端になっている。競技者数をどうするかは全体で話し合っ設定してほしいが、ミドル選手権競技者数が男子 60 人、女子 30 人となった経緯としては、加盟員数の男女比が 2:1 であるという事実が一番大きな根拠とされ、男子 60 人:女子 30 人または男子 80 人:女子 40 人の両案が出されたが、男子 60 人:女子 30 人が可決されたという流れとなっている。ここ最近の女子ロング選手権を見ていると、トップと比べて 40 人目の人のタイムが開きすぎていると感じる。学生 1 位を決める大会の中で、選手権としてある程度のレベルの枠を設けるのは必要だと考える。客観的なデータとして、2015 年度インカレロング選手権を見ると、男子では失格になっていない中で一番後ろのタイムが、およそトップ比 150%。今回ウイニングが早かったという面はあるが、女子ではトップ 60 分程度に対して一番後ろのタイムはおおよそ 2 時間 20 分となっている。そこで女子選手権 30 位のタイムを見ると、トップ比 150%程度となっていて、トップに対しておおよそ 150%以内というのはかなり丁度良い数値であると思われる。トップの 2 倍以上のタイムで完走している人は、選手権クラスよりは一般クラスで上位争いをした方が良いと思う。こういった点も踏まえて、女子選手権者数を 40 人とするのが良いのか、30 人とするのが良いのかを全体で考えてもらいたい。</p>
五味	<p>大西さんに言っていた内容が、女子ロング選手権数の削減に賛成する意見の中にも出てきていて、女子の下位層は選手権を走るレベルには無いのではないかという意見が挙げられている。また、現行の女子 40 人に賛成する意見の中には、現状では女子 40 人での運営ができているのだから減らす必要性が無い、女子は競技人口が少ないのにも関わらずモチベーションを減らしてしまうのは良くない、といった意見がある。大西さんが言って下さった意見と、女子 40 人に賛成する 2 つの意見が平行線になっていると思うので、この平行線をどうにか交わらせたい。大西さんが言って下さった女子選手権下位層のレベルが選手権を走るレベルに満たないのではないかという意見を、女子 40 人に賛成する人に言っても、その人たちが納得することはなく議論は平行線のままになるのではないかと感じる。</p>
松浦	<p>今回アンケートを見ると、関西学連が 4 校全て反対していて、関東学連で女子の人数が</p>

	<p>少ない大学が反対している。現状、前回のロングでもそうだったように北信越は人数に対して枠が多く、逆に関西は女子校がたくさんあるにも関わらず枠は3つしかないという状況である。そのあたりのバランスをもう少し直すことができれば30人でも良いという意見も出るのではないかと思う。実績枠の振り方を変えることで、少し変化があるのではないかと思う。</p>
五味	<p>枠の振り方が変わった結果、例えば人数に対して一律10%程度拾うことになったとしても、あまりレベルが高くない学連から上がってきた人は、結局下位になってしまうと思う。</p>
松浦	<p>入賞したら、個人実績枠とその人が取った枠を合わせて2.4枠を持って帰ることになる(のが多すぎるという問題もあるのではないか)。</p>
五味	<p>その意見は聞いたことはある。</p>
木村	<p>確認だが、そもそもこの発議の動機は何か。</p>
五味	<p>もともとは、インカレミドル選手権競技者数を男子60人、女子30人とする幹事会案を決定したときに、インカレロング選手権だけ女子40人となるのは良くないということからこの議論が始まった。</p>
大西	<p>幹事会としての意見は、女子選手権競技者を削減するという点でほぼ一致していたが、加盟員にアンケートを取ったところ、結構反対意見が出てきたという感じである。</p>
五味	<p>幹事会では何度話し合っても削減という意見は変わらなかった。</p>
海老	<p>30人と40人のどちらの競技者数が自分にとって有利か、ということが大きく結果に影響するアンケートであるから、その結果の読み取り方は考えた方が良い。</p>
村瀬	<p>基本的に女子にとっては競技者数を減らすことのメリットは無い。</p>
海老	<p>というより、競技者数を削減するとエリートを輩出するのが難しくなる大学は、絶対削減には賛成しないと思う。</p>
木村	<p>大幅に遅れてゴールされると運営上困るから競技者数を削減してほしい、などという要望ならば論点が明確だが、今回の競技者数を削減する動機の根本はどこにあるのか分らなかった。確認したかった。選手権は学生1位を決める場であるべきということが立脚点という点で良いか。</p>
五味	<p>そうである。</p>
田中(基)	<p>その認識の違いが幹事会と学連の間にある。幹事会内では、選手権は選手権者を決める戦いであって、そこで戦えない人はセレを通り抜けることができないという認識だと思う。学連では、出られたら嬉しいクラスと認識されていることもある。その認識の差が埋まらない限りは意見が平行線のままであると思う。</p>
木村	<p>議決権は無いが、私の意見としては、それは総会で決議するしかないと思う。</p>
田中(基)	<p>総会決議しようとしたら、当時の総会の場で決議をすることが否決された。</p>
五味	<p>選手権数に関する議論を深められていないため、議論を深めたいという決議となった。議論を深めるというのはどうすれば良いか、ということが今の議論である。幹事会としては、先程大西さんが言って下さった意見で固まっていて、幹事会としてはこれ以上議論が</p>

	深まらない状態となっている。
木村	それは幹事会内では十分議論が深まっていると言えると思うが。
海老	その状態で、総会で決議を取るしかないと思う。
木村	理念に関する話なので、仕方ないと思う。
五味	しかし、理念について、すなわち日本学連がどうあるべきか、決議しているのではなくて、各大学がどうしたいかという判断に基づいて決議がされていると感じるのだが。
木村	各大学の利益代表であるから、そういうものである。
齋藤	幹事会の総意としてはこうであると提示し、後は各大学の判断になってしまう。最終的には、各大学に委ねるという形にしかできない。
細	今年度ミドル女子選手権数を 30 人にしてみて、来年度その反応を見てみてはどうか。
高橋	実際にやってみた後に、決をとってみれば良いのではないか。
五味	確かに。今年度インカレミドル B エリートを廃止した時にも、モチベーションの話が出たが、今年度ミドルセレクションの際に誰のモチベーションが減ったのかというのは疑問ではある。
小泉	ミドル B エリートを廃止した時は、あくまで仮にあったものが無くなるという状況(であり、今回ほど反対は多くない)だったが、今回の場合は女子選手権者の数を 40 人から 30 人に減らす、というとても明瞭な変化になるため、反対意見が多く出てくるのだと思う。これは総会で決めるしかないと思う。
田中(基)	選手権クラスの意義を考えようと言っているのに、各渉外がそれを持ち帰り、きちんとクラブ員に話してくれないまま、各大学が議論を深めたいと言ってくる人が多いように感じる。その点が、幹事会としてもやややを感じる原因であるよう思う。こちらの説明が不十分なのかもしれないが。
大久保	それに関して、ナンバーワンを目指す人がいる大学と、そういう人がいない大学の立場の違いがある。幹事会側がどれだけうまく説明しても難しい部分があると思う。
木村	幹事会は削減の方向で検討し、次の総会で決議するつもりであるので、各加盟校はそれぞれ意見を持って総会に臨んでください。と言う他ないと思うがいかがだろうか。
小泉	インカレミドル前に各地区学連総会があると思うので、文面だけで意見を持ってきてくださいと伝えるのではなくて、地区学連総会で幹事長が渉外にしっかり伝えると良いと思う。
大西	各地区学連で一度しっかり話し合ってもらおうということで。
小泉	話し合い自体は加盟校ごとにやってもらおう。文章だけで幹事会の意見を提示しても、それを読まない大学等もあると思うので、地区学連総会で幹事長が伝えると良いだろう。
五味	学連合宿をその機会に充てるのはどうだろうか。
大西	それほど多くの大学は参加しないと思うので厳しい。
五味	現行の女子選手権者数 40 人に賛成している大学にも、もう一度考えてもらおうとするならば、意見を対立させるのではなくて、削減に反対する意見に応える形にして、幹事会の意見を投げかければ良いと思う。

木村	<p>発議をした側は、理念を伝える努力をしなければならないので、なぜ女子選手権者数を 30 人にすべきなのかという根拠をまとめた資料を、Web で公開でも良いので、公開して各大学に案内をすると理解が深まると思う。発議側の広報として、そのようなことをやると良いと思う。カウンターがあれば、またそれに対する幹事会の意見を広報すれば良いだろう。</p>
五味	<p>では、女子選手権者数が 30 人であるべき根拠を、大西さんが言って下さった意見等を入れて紙にまとめて、幹事会の意見として提示しようと思う。</p>
大西	<p>それを各大学に提示して、後は総会の決議という流れで良い。</p>
木村	<p>幹事会としての意見をまとめた提案書は作成した方が良い。その提案書を見て、それでも自分の大学は理念が違うということであればしょうがない。</p>
五味	<p>先程言っていたカウンターに関して、この前のアンケート結果が出ているので、今ここでカウンターを出すということが良いか。</p>
木村	<p>30 人にしたいという幹事会の提案に対して、そうあるべきではないと言って下さる意見があれば、それに対するカウンターの意見を幹事会側で広報する。40 人が良いという学校には、どうして 40 人であるべきなのかを説明してもらえれば、反対が多くて幹事会の提案が否決されても双方で理解が深まると思う。</p>
五味	<p>今話したカウンターの意見について、資料をまとめるために確認しておく。現行の 40 人に賛成している大学の意見としては、モチベーションが下がる、40 人から 30 人に減ることによって学連枠が減る可能性が高くなる、ということが挙げられていたかと思う。自分の大学が女子選手権数 40 人に賛成しているという人や、40 人に賛成している人の意見を聞いたことがある、という人がいれば、話を聞かせてもらいたい。</p>
小泉	<p>ロングセレクションで 2 年生が通るチャンスが少なくなる、といった意見を関東では耳にする。学年の低い代が初めて選手権に挑む場として、ロングセレクションはとても良い環境だから、2 年生などにとって通りやすいことは重要であるという話は聞く。モチベーションの話に繋がってくるものではあるが。</p>
村瀬	<p>僕が聞いた話だと、女子選手権者数が 40 人で現在運営上問題がないのに、わざわざ選手権者数を下げるの必要性を感じないという意見がある。</p>
田中(基)	<p>今年度インカレロングでの総会の議事録を見ても、女子選手権者数 30 人に反対する意見としては、40 人から減らす理由はないといった意見しか出ていない。ロングでの総会では、女子選手権者数を 30 人で切った時に、30 位より下は 150%を越えてしまう、といった競技的な話は一切出さなかった。そこに触れると、加盟校の意見が違ってくる可能性はある。</p>
五味	<p>では、女子選手権競技者数が 30 人であるべき根拠の候補に、女子選手権の 30 位より下の順位ではトップの 150%以上のタイムとなるということを入れることとする。</p>
木村	<p>齋藤氏もいることなので聞きたいが、ロング選手権のコースを組む時に、トップを決めるレースであることはもちろんであるが、下位層を多少は気にして安全面を考慮するだろうか。</p>

齋藤	ロングは組んでいないので分からないが、多少だと思う。
大西	考慮していると思う。難易度を上げすぎるとあまり良くないというのはあるが、選手権で難易度を上げすぎではいけないというのも変な話なので、考慮はある程度しかできないが、安全面の話は実行委員会では絶対に出てくると思う。
田中(基)	運営側からそのような意見がある、というのは根拠として強いのではないかと思う。
木村	間違いなく、毎回実行委員会では安全面の話が挙がると思う。
齋藤	絶対に実行委員会で話に挙がる。
五味	では、女子選手権競技者数を30人にする幹事会の意見の根拠として、先程の150%の話と、運営面に影響があるということも盛り込みたい。
海老	年によって上下する数字はあまり使わない方が良いかもしれない。
大西	ただ、女子の方がトップと下位層の差が開きやすいことは確かである。
田中(基)	昨年度あわらロングの時でも、女子選手権の30位より下は殆ど帰って来られなかったことから150%という数字は毎年変わらないと言えるのではないか。
五味	下位層のレベルを考慮するため、運営側に影響を与えているということで良いだろう。
木村	40人の枠では、そのような参加者層が来ることを前提にコースは設定されている。
五味	それでは、モチベーションが下がる、エリートを1人も輩出できなくなる大学が出る、といった意見に対して、カウンターの意見はあるか。
大西	輩出できなくなるという意見に対しては、難しいが、頑張ってもらって他無いのではと思う。それに、必ずしも全大学がエリートを輩出できるわけではないので。
齋藤	大学の立場で考えてみると、エリートが出せないというのは、チームオフィシャルが出せないということであり、そのことはもしかしたら30人に反対する根拠となり得るかもしれない。
大西	色々な大学の組み合わせで考えた時に、チームオフィシャルを1人も出せない学校はあるのだろうか。
海老	過去にはあった。今の春インカレでも少し問題になっていて、併設しか走れず、オフィシャルが同じ宿に泊まれないということがある。そのことは、今回とは別の議論だとしても、考えないといけないことだろう。
齋藤	30人に反対する大学の議論の一部にはなっていそう。
田中(基)	そもそもエリートがいなくて、インカレに行くモチベーションが無くなるという大学の方が多気がするが。応援する相手がないのに、わざわざ高いお金を払って参加したくない、というのはあるのではないかと思う。
五味	関西学連の女子校は、実際今年度でエリートが出ない所もあるかと思うが、この点についてはどう思うか。
松浦	関西女子は今年度枠が少ないが、大阪大学と奈良女子大学、京都大学と京都女子大学でインカレしているので、一緒になって応援が出来る形にはなる。関西女子の枠が少ないのは以前が強くなかったからであり、仕方がないとは思いますが、枠が最低1人しか保証さ

	れていないのが少し辛いという話は聞く。しかし、選手権に出場した人が枠以内の順位に入れば枠は増えるので良いだろうが。
五味	女子の学連枠が1枠であることが厳しいということで良いか。
松浦	選手権に出場した人が失敗してしまうと、その次の年は1枠になるということが厳しい、ということは聞くが、それは仕方ないことではある。
大西	それは地区学連の一番速い人が、選手権の半分以上の順位に入れられない力の地区学連ということになってしまう。
齋藤	他の地区学連からすれば、枠は10年も20年も積み上げてきたものであって、枠が少なくなってしまう地区学連を考慮するのはなぜ、という気持ちはあるだろう。枠が少なくなってしまうのは、その地区学連が弱くなってきているからと言えるので、その中から復活するのは大変だとは思いますが。
五味	では、エリートが輩出できない大学があるという意見に対して、エリートが輩出できない大学があることは、理論上仕方のないことである、という幹事会としての反論をしても大丈夫だろうか。(→賛同)
大西	みんながエリートに出たくて頑張っていて、その結果として、出られる大学と出られない大学があるというのが選手権である。
五味	枠の数については、昨年度の選手権の結果のみが反映されるから、個々の選手に頑張ってもらいたいということが良いか。
大西	そうである。
木村	今の議論は、従来の枠組みの中での議論である。もし、枠の制度自体を新しくしたいというのであれば、発議してもらえば良い。
大西	みんなの納得のいく仕組みにしたいというのであれば、発議してもらえば良い。
五味	自身の大学でも、学連枠が少ないのは持ち上がるのに大変であるという意見があった。
木村	枠の数の変化が遅いので、もっと早くしたいということだろうか。それならば、年に2回インカレがあるわけだから、それをうまく反映させて枠組みを作る等、うまい提案があれば、それを議論して決めてもらえば良い。実行委員会は皆さんの決めたルールに従って運営する。
五味	この問題について、幹事会の意見をまとめようと思う。女子選手権者数が30人である基本的な根拠としては、加盟員の男女比2:1に準じて、男子60人に対し女子30人としている、30人にすることによってトップに対するタイム比率を小さくし、コースに対する制約や運営負担をなくせる、ということが挙げられる。モチベーションが下がる、エリートが輩出できない大学がある、という意見に関しては、エリートが輩出できない大学があるのは仕方が無い、個々の選手に努力してもらいたいといった反論が挙げられる。また、枠の数の新しい決め方についての案があれば活発に発議してほしい。これらをまとめた書類を作ろうと思う。それを出した上で、総会で決議を取るということを告知し、春インカレの総会で女子選手権者数を30人にするかどうかの決議を行う。これで

	良いだろうか。
松浦	30 人にする決議となった場合は、次のインカレロングに反映するつもりか。
五味	今その話をしようと思っていた。今年度ロングの総会の時にもその話が出ていて、規約案を幹事会で作っておいて、もし次期総会で女子選手権数を 30 人にする決議がなされた場合は、その場で規約自体も決議してしまうことで来年度インカレロングの人数を変更しようと考えている。次期幹事会では、人数の記載を変えるだけにはなるが、規約の改正の確認を行い、次期総会には規約案も持っていきたい。これで良いだろうか。
大久保	運営の負担というのは、安全面に負担があるといった風に、具体化して記載するという ことで良いか。運営面の負担とは何ですか、といった意見が出た時のために記載した方が 良いと思う。具体的にこういう風に運営面に影響が出るという書き方をした方が良 い。例えば、先ほど木村さんがおっしゃったように、コース設定に関して、下位層も考 慮するため選手権の難易度に影響がでる、といった記載をした方が良いと思う。
木村	簡単に書くだけで良いと思う。具体的には、コース距離、登坂、難易度に対して、下位 層のタイムが長くなりすぎないように配慮がされる。
五味	では、運営負担に関して、下位層を考慮するため、コース距離、登坂、難易度に対する 考慮がされている、とすれば良いだろうか。
木村	もともと難易度が低いトレイン等は考慮しない場合もある。ケースバイケースとなる。
五味	では概して考慮されている、としたい。運営負担は、このような文面を記載する。何か 他に あるか。
小泉	この文面はいつ頃出せるだろうか。早めに出せたら、関東学連総会で幹事会としての意見 を幹事長の口から直接説明できるので。できれば 2 月半ばまでに出していただきたい。
五味	他に何かあるか。
松浦	規約の変更のところで、各地区学連枠の計算方法も規約変更に含まれると思うので、移 行期の枠の計算方法を話した方が良いともう。昨年度 40 人でロング選手権を行ったとき の半分(20 位)以上で枠を計算するのか、それとも選手権者数 30 人の半分(15 位)以上で 枠を計算するのか。これはいつ決めればよいか。
田中(基)	今決めるしかないだろう。
小泉	ミドルの時には事後的に、枠の配分方法を決めた。
大西	A エリートと B エリートを複合させて枠を計算する案になった。
五味	案 1 としては 40 分の 15 で枠を計算する。案 2 としては 40 分の 20 で枠を計算する。こ の 2 つで良いか。
松浦	昨年度のインカレロングで枠以上の順位である 20 位以上を対象にするのか、もしくは、 規約は 15 位以上になるため 15 位以上を対象にするのかということである。
五味	規約の文言自体は、30 位中 15 位以上で枠を計算すると記載すれば良く、来年度インカレ ロングに関しては案 1、案 2 のどちらとするべきか。
松浦	倍率が変わるだけなので 20 位以上で良いと思う。

田中(基)	そもそも、移行期である今年度ミドル選手権の枠の計算は、なぜ前年度の A エリートのみ の順位を用いなかったのだろうか。
五味	今年度以降の規約では、女子選手権は 30 位中 15 位以上で枠を計算する。昨年度女子選 手権者 20 人に対して、15 位以上の比率で枠を計算すると昨年度選手権者の半数以上で枠 の計算がされるため、枠の意味が薄れるということで、B エリートの 5 位以内も枠の計算 に含めることとなった。
小泉	枠の計算自体の手間は変わらないと思うので、この場の各人がどう思うかで 15 位以内に するか、20 位以内にするか決めるということで良いのではないかと。
五味	理由づけは要らなくて、どちらが良いかということで決めようと思う。現役幹事のみ の多数決で決めたい。40 分の 15 が良いという方。(→挙手無し) 40 分の 20 が良いとい う方。(→全会一致) では、来年度インカレロング女子選手権の枠を計算する際は、前年度 ロング女子選手権 40 位中 20 位という基準を使うことにしたい。それ以外に、来年度の 枠に関して意見はあるか。無いようなので次に移りたい。

3. 後援大会規約の作成について

－背景－

各後援大会の情報、特に渉外についての情報を渉外報告書という形で、後援大会を主催した大学から集めるという決議が前回幹事会でなされた。また、現在提出義務が課されている大会実施報告書について、何も形式が決まっていない。後援大会の実施報告書及び渉外報告書に関して取り決めが必要である。

－議論の概要－

今後、後援大会に関する規約を作成する際に問題となる、草案を誰が作るか、草案の内容はどう決めるか、規約をいつから運用するか、草案に対してどのように意見を集めるか、という4点について討議した。

－結論－

規約をいつから運用するか、誰が草案を作るか、ということに関して、実施報告書は来年から運用し、新粥氏が担当することとなった。渉外報告書に関しては2017年度から運用し、小泉氏が担当することになった。どう作るかということに関して、実施報告書については今年度提出されている報告書を参考に作成することとなった。

－発言内容－（敬称略）

新粥

配布した資料に関して説明する。筑波大学大会の実施報告書を含む書類について、これらの報告書は、大会を主催した加盟校に対し現在提出義務を課しているものである。KOLC 復活大会の渉外報告書を含む書類の方は、今回後援した大会にお願いして渉外をどのように行っているかを書いてもらったものである。今回の議題の経緯を説明すると、学連として折角後援しているのだから、学連も何か得られると良い、ということで各後援大会の情報、特に渉外についての情報を、後援大会を主催した大学から集めるという決議が前回幹事会でなされた。集めた資料は今後後援する大会にフィードバックしていくという形となる。先程でも説明したが、現状の規約に則り各大学から提出された報告書である。KOLC 復活大会の渉外報告書を含む書類は、今回渉外に関して、各大学にお願いする形で集めたものである。今回の幹事会で決めたいことは、これをもとに今後後援大会に関する規約を改めて作り直す時に、その草案を誰が作るか、ということ。そして、草案の大体の方針を決めることが2つ目に決めたいこと。3つ目が、規約を作ってそれをいつから運用するかということ。来年度からやるならば、大至急取り組まなければならないが、来年度1年間幹事会で詰めていくというのであれば急ぐ必要は無い。4つ目が、来年度から運用するとすれば草案等に対してどのように意見を集めるかということ。これらの4点について意見を聞きたい。特に問題なのは、現在提出義務が課されている報告書について、規約には報告書を提出してくださいと書いてあるだけであり、何も形式が決まっていない。実際に提出された報告書を見ても形式がバラバラである。KOLC 大会に関しては、名相大会の報告書に倣って書いたということで良いか。

小泉	そうである。
新粥	東北大学大会に関しては、事業報告書に加えて後援への感謝の書類を付けてくれたりしている。このようにバラバラなので、きちんと決めたいという所である。まず誰が作るか、ということについて話したい。恐らく、幹事会内で草案の内容を検討していくと時間が掛かるので、まず一人が草案を作成して、それに対して意見を出していくと良いと思う。
五味	または、今提出してもらっている渉外報告書の中から一番良いものを草案としても良いのでは。
新粥	ただ、報告書に関して、渉外報告書と別に出してもらおうのかが問題になる。
小泉	渉外報告書は通常の報告書と別に出してもらうべき。
新粥	私はそう思う。そういう所も含めて、どう作るかというのはもう一段階後の話として、まず誰が作るか。誰もやらないのであれば、事務局でやってはしまうが。
小泉	そんなに急がなくても良いか。
新粥	来年度から運用したいのであれば急ぎだが。
高橋	ちなみに新年度一番初めの後援大会は東大大会か。
新粥	そうなる。
高橋	最悪、そこまでに間に合えば良いと思う。
新粥	来年度から運用するならば、次回幹事会で規約をまとめて、今年度インカレミドルの総会で決を取る形となる。ひとまずいつから運用するかを先に決めたい。
小泉	渉外報告書を集めるということに関しては、目的の一つとして、新しく大会を始める大学に向けてノウハウを提供するということが挙げられていたので、現段階で新機軸事業が出ていないのであればそれほど急ぐことでは無いと思う。
新粥	来年度は、今年度同様に普通の報告書を出してもらって、渉外報告書はお願いという形で出してもらい、来年度でしっかり形を決めてもらって、再来年度の2017年度から運用を始めるという方向で良いだろうか。何か意見はあるか。
橋場	様式を定めないにしても、報告書に盛り込んでほしい内容くらいは決めた方が良い。
五味	今回出してもらった報告書でどの大学も報告している基礎的な項目を取り上げて、その項目については必ず書いてもらうということにすれば良いのではないか。渉外報告書の方は、各大学で渉外の方法が異なるだろうから形を定めるのは難しいが、大会の実施報告書については、人数や競技形式等の基本的な事項を記載して、記録なのでそれほど細かく書かなくてよいのではないか。
新粥	規約で定められている報告書については規約改正が必要ないだろうか。
五味	報告書に関しては、幹事会でフォーマットを作った、という風にして出せば良いだろう。
小泉	渉外報告書の方については私がやります。
新粥	いつから運用するか、誰が草案を作るか、ということに関しては、実施報告書は来年度から運用し、新粥が担当する。渉外報告書に関しては2017年度から運用し、小泉が担当するというようにしたい。どう作るかということに関しては、実施報告書につい

	<p>ては今提出されている報告書から項目を取り上げて作ろうと思う。渉外報告書に関しては、名相の渉外報告書を参考にしながら、作ってもらうということで良いか。</p>
小泉	<p>渉外報告書に関しては、しっかり練らないといけないと思う。</p>
新粥	<p>では、来年度以降詰めていくということをお願いしたい。</p>
小泉	<p>実施報告書については名相大会の実施報告書をベースに作れば良いと思う。</p>
新粥	<p>実施報告書に関しては、草案を作ってみてメーリス上で意見を募りたい。後援大会規約に関して他に何か話しておきたいことはあるか。特に無いようなのでこれで終わりたい。</p>

4. 目安箱について	
<p>－背景－</p> <p>幹事会で取り上げることが難しい加盟員の直接の意見を集めるため、目安箱の設置が2014年度第3回幹事会で決定された。2015年度インカレロングの際に設置した目安箱には、加盟員からの意見は投函されていなかった。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>目安箱を広く周知するためにどうすれば良いか討議した。</p>	
<p>－結論－</p> <p>・目安箱の広報の方法は以下の通りとする。</p> <p>①総会等の場等で、学連や各地区学連が各加盟校渉外に直接周知する。</p> <p>②学連ホームページや学連渉外メーリングリストで周知する。</p> <p>・また、インカレ及び学連後援大会において、学連に対するアンケートを実施する。</p>	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
村瀬	今年度インカレロングの際に目安箱を設置したが、特に意見が入っていることは無かった。これは広報が足りないからなのか、そもそも意見を出す人がいないのかは分からないが。
新粥	意見を出したい人はそれこそ、最初の議題のように学連に直接連絡するだとか、後で話す議題のように事務局に連絡がある。言う人は窓口で連絡してくる気がする。
村瀬	目安箱を置くのがただのパフォーマンスになっているのではないかと、という気もする。
木村	大事なことだと思う。
五味	そのような窓口を幹事会から設置しているというのは大事だと思う。
新粥	意見が来ないからやめますは違う気がする。
大久保	すごくお金が掛かっているわけではないから置いといて良いと思う。
新粥	地区学連幹事長が地区学連総会などで伝えるのも良いと思う。
小泉	広報は足りないと思うので、もう少し広報をするべき。後援大会も目安箱を置くという事で良かったか。
新粥	そうになっている。
五味	その曖昧になっている所を、きちんとして、広報をしっかりとしていきたい。広報については、地区学連ごとに目安箱の存在を周知してほしい。渉外に回答してもらったアンケートにも書いてあったが、総会だけで意見を集めていると、渉外個人の意見が強くなるので、他の場面で意見を集めてほしいという意見があった。文面からすると、目安箱の存在を知らないと思われたので、広報はしっかりやっていきたい。実施については、後援大会には目安箱を置いてもらうという形になる。用意する箱はどうしたら良いだろうか。
高橋	インカレロングの時に身内に、箱とかでは無くてコメントフォームを作ったらどうかと言われた。大会時だけだと、大会に行かないと意見が出せないから、もっと気軽に

	意見を言えるとは思う。
齋藤	それをやるなら、匿名にするかどうかをしっかりと考えた方が良い。
高橋	そういった所が問題になってくると思う。
齋藤	集めたいと思うなら、目安箱を置く大会ごとに周知をしっかりとしなければならない。 また、インカレ当日等マイクを貸してほしいければ、よほど忙しい時でなければ渡せるので、周知出来ると思う。そのような広報もしたら良いのではないかと思う。
高橋	プログラムに目安箱について書くのはどうか。
齋藤	プログラムに書いたとして、競技に関係ないところをみんなが読むかは分からない。
大久保	広告を出したらどうか。ファミテックの広告費を日本学連が出しているくらいだから、日本学連が自分のために広告を出しても良いと思う。
五味	後援する大学大会に置く目安箱に関しては、箱は何でも良く、目安箱という文字が見えるようにして大会受付等に置いてもらうこととする。意見を書いてもらう紙も用意しなければならない。
新粥	その紙のフォーマットも作った方が良い。
五味	ではフォーマットを作ることとする。後援申請が来た大学には、目安箱を置くことについて事務局から伝えてほしい。加盟員全体に対しても、そのことは周知したい。目安箱の内容については以上で、広報の話に移りたい。
高橋	一時期 twitter で意見を集めるということもあったが。
五味	質問だが、意見を出す側としては匿名であることのメリットは大きいのだろうか。
小泉	自分に対して不利なことを言うときは匿名の方が良いかもしれない。
齋藤	以前にも言ったが、意見を集めるならば、集めた意見をどうするのか幹事会側から言わなければならない。集めた意見を全部検討するのか、ひとまず意見を公開するのか、記名のある意見は名前まで公開するのか等を考えなければならない。集めるだけでは意味が無い。
木村	出す側としては、出した結果どうなるのか想像しながら書くと思う。公開されるのかどうか、真面目に全て検討するのかどうか等を言わないと、出す側のモチベーションが上がらない。勝手な意見になるが、パフォーマンスを含めて目安箱を設置するならば、アンケートを行ったらどうだろうか。学連に対して何か意見が無いかどうか、後援大会やインカレで参加者全員に配って聞いてみると良いのではないか。仮に匿名の Web で意見を集める時、加盟員ではない人から意見が集まる可能性があるが、直接配ることでそれはなくせる。また、紙で全員に配るということは全員に門戸を開いているということ PR するということにもなる。
五味	どのような意見に対して幹事会が対応するかというのは、前副幹事長の佐藤さんが目安箱を提案した時の幹事会では、全部の意見を取り上げるというのではなく、幹事会で有用性があると判断したものについて展開していくという方針となっていた。
木村	そういう風にするということをきちんと目安箱に記載するべきだと思う。

五味	分りました。それは目安箱の意見提出用の紙に記載することとする。
田中(悠)	それについては Web の方に記載したい。
木村	紙にそのことを書くのでは、その紙を手にしないと分からないので良いと思う。
五味	木村さんにご意見をいただいたように、インカレ等で全体に紙を配ってアンケートをするということについて何か意見はあるか。
新粥	後援大会に関しては、大会ごとにアンケートを取っていると思うので、そのアンケートに同封する形で良いと思う。
五味	インカレでもお願いしたら出来るだろうか。
木村	それは実行委員会次第だと思う。
五味	学連に対する意見を聞くアンケートを、インカレの時に紙媒体で配って回収することは可能だろうか。
海老	それは可能だと思うが、出来ればフォーマット等を統一した方が良いので、それをもらえれば出来ると思う。
五味	では、後援大会やインカレで配るアンケートのフォーマットを作成して、後援大会とインカレでアンケートを実施することとするのが良いだろうか。(→異議無し) 実施に関しては以上かと思う。広報に関しては、学連及び地区学連で周知するというのと、ホームページやメールで周知するという以外で何かあるか。何も無いようなので、その2つで広報を展開していくこととする。

5. 日本学連活動報告書について	
—背景— 1年おき、偶数年度の秋インカレ時に、学連は日本学連活動報告書を発行している。	
—議論の概要— 日本学連活動報告書の作成委員長を募集した。	
—結論— 幹事会からは作成委員長に名乗りを上げる人はいなかった。作成委員長は、広報部長から個別に依頼する予定である。	
—発言内容—（敬称略）	
田中(悠)	新幹事の方は知らない方もいると思うので、活動報告書について説明する。活動報告書には、幹事長や副幹事長、各部局、各地区学連幹事長などが一年間何をしたかということが書いてあり、日本学連の沿革や、事務局関係や加盟員関係のデータ等も載っている。昨年度の活動内容の原稿は、前年度広報部長の高橋さんに集めてもらったが、今年度の活動報告の原稿は、これから決める活動報告書作成委員長に集めてもらうことになる。活動報告書作成委員長は、前年度の原稿を高橋さんから引継ぎ、今年度の原稿を集めたものと併せて、活動報告書を作成する形となる。この報告書は2016年度インカレロングの総会までに作成する。皆さんに聞きたいのだが、この活動報告書作成委員長をやっても良いという方はいないだろうか。幹事会から出さなければいけないということでは無いが、学連の事情が分かっている人が作成者であると、やりやすい。
五味	以前の活動報告書作成委員長は前副幹事長の佐藤さんであった。
田中(悠)	どのような経緯で活動報告書作成委員長が佐藤さんになったか知っている人はいるか。
高橋	前回は、そもそも作成委員長を募集する発議を忘れていて、それに気付いた時に当時の新旧幹事長や前任の作成委員長に相談した。最終的には、昨年度幹事長の宇井さんと相談し、副幹事長の佐藤さんならば活動報告書を作成する余裕があるのではないか、という話になり、依頼してみたら引き受けてもらった。
田中(悠)	ここでは名乗りがあがらないと思ってはいたが、一応聞いてみたかった。作成委員長が決まったら、スプリント・ロング・ミドルの実行委員長や、ミドルの会計の方なども原稿を提出していただくようお願いしたい。幹事の方も提出をお願いしたい。
海老	いずれにせよ早めに決めた方が良いだろう。
五味	学連に通ずる人である必要があるのか。
田中(悠)	決まりはない。
大西	昔、外部の人が作成委員長となった時には幹事会にも参加していた。
小泉	仕事内容は具体的にどうなるか。
田中(悠)	作成委員長は、活動内容の原稿を集めるだけではなく、理事の方等に学連の歴史の執筆を依頼して原稿を集めたり、事務局や加盟員等のデータを集めたり、印刷業者に発注をかけたります。

田中(悠)	名乗りがあがらないようなので、今後個別に声をかけさせてもらうかもしれない。今日聞きたかったこととしては以上である。
五味	では次の議題に行きたい。

6. 賛助会員登録について	
<p>－背景－</p> <p>現在、賛助会員登録の受付方法としては、大会会場における受付、賛助会員の入力フォームによる受付、郵送による受付、電子メールによる受付の4つの方法がある。郵送受付と電子メール受付を無くしてしまっても問題ないのではないかと、普及部長から発議があった。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>郵送及び電子メールによる賛助会員登録を無くすかどうか協議した。</p>	
<p>－結論－</p> <p>電子メールによる賛助会員登録を無くすことを決定した。</p>	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
細	<p>賛助会員の登録について、現在申し込み方法が4つある。1つは大会会場での受付方法で、それ以外、常時受付できる方法が3つある。常時受付できる3つの方法として、賛助会員の入力フォーム、郵送による送付、電子メールによる送付があるが、その内の郵送送付と電子メール送付を無くしてしまっても問題ないのではないかと思う。それを無くすことによって、現在長くて読みづらくなっている学連ホームページでの賛助会員登録方法の説明を簡略化できる。現在申し込み方法がバラバラで事務局側に負担があった状況だと思うが、その負担も少しは改善できるのではと思う。また、賛助会員の申し込みは記入漏れが多いので、その記入漏れを減らせるのではないかと考えている。来年度からは、大会会場受付と、賛助会員入力フォームの受付のみにしたいと考えている。質問だが、理事の方で賛助会員になったことのある方は、どうやって賛助会員になったのか教えていただきたい。</p>
齋藤	大会会場で受付をした。
大西	学連のホームページで行った。
細	入力フォームとメールのどちらだったか。
大西	入力フォームができたのは最近の話なので、メールで受付を行った。
新粥	私がやってきた2年間については、賛助会員登録フォームと大会会場受付が半々で、合わせて9割5分程度、電子メール送付はこの2年間で一度も来ていない。郵送送付は毎年2,3件来ている。郵送送付に関しては、送られてくる人が固定されているように感じる。昔から同じ人が賛助会員登録を郵送で送ってきてくださっているという意味では、あまり削りたくない。また、記入漏れのある申込みを減らせるということに関して、記入漏れのある申し込みは殆ど大会会場受付であるため、正直あまり意味が無いと思う。大会会場では、名前と金額のみを記載してお金を払っていくという事も多い。
木村	少し話がそれてしまうが、学連はJOAの会員になっているので、寄付金として、所得控除で免税にすることができる。例えば、JOAに対して10万円寄付するけど、その内の9割を学連に交付するという形にできる。1万円分についてはJOAの方で手数料として取るとして、10万円中の4万円は国税庁からお金を戻すことができる。それを学

	連の賛助金としてもらうという事も出来る。
細	ありがとうございます。話を戻すが、電子メールは来ていないという事で良いか。
新粥	今年に関しては絶対来ていない。去年はしっかりと覚えてはいないが、恐らく全てフォームだったと記憶している。他に、学連 Web での煩雑な賛助会員登録の説明が原因
	で起きた問題として、フォームを見たが、お金をどこにどう振り込んだら良いか分からない、という問い合わせが来たことはある。それに関しては、連絡をしていただいた人が、お金の振込に関する記載を見落としていたということだった。
細	郵送による賛助会員受付はされているということだったので、電子メールによる受付
	を廃止にしようと思う。
五味	では、次に移りたい。

7. 春インカレについて	
－議論の概要－ 春インカレについて、海老理事から報告が行われた。	
－結論－ 海老理事から、以下の4点について報告があった。 ①イベントアドバイザーは技術委員会の助言の下、技術委員会の中から理事会が指名する、とインカレ実施規則に定めてあるが、実際の運用上はそうすることが厳しい。 ②来年度春インカレの日程に関して、従来は3月1週目ないし2週目の開催だったが、遅らせる可能性がある。話がまとまり次第、正式に発表する予定である。 ③春インカレにおいて、原則前泊が必要であるかどうかを加盟員の総意として判断してもらいたい。その際、原則前泊することとなった経緯や、前泊がもたらす影響面等も考慮してほしい。 ④春インカレにおける特例措置を継続するかどうかということを議論し、継続するなら規約化した方が良くはないかと考えている。	
－発言内容－（敬称略）	
海老	今日お話ししたい点は4つある。1つ目は、木村氏にもアドバイスをいただきたい。インカレ競技実施規則34章で、イベントアドバイザーは技術委員会の助言の下、技術委員会の中から理事会が指名する、とあるが実際の運用上はそうすることが厳しい状況となっている。私自身2013年度インカレミドルのインカレアドバイザーをした時、アドバイザーになってくれということで技術委員会に入ったという様な運用になっている。また、技術委員会には入っていない、アドバイザーをしてもらっているという状況は実際にはある。正直、運用に合わせる形になってはしまいが、この規約を改正してもらって、技術委員会の推薦する人を理事会が指名するという形にしてもらいたいと思っている。これはミドルもロングも共通の課題だと思う。この話は以前も幹事会で発議してもらっているのだろうか。
大西	幹事会で発議をしたことは無い。技術委員会を出ている話である。現段階では実用的に問題が無いから、規約がそのままになっている。
海老	運用と実際が合っているかどうかということとは別としても、そもそもアドバイザーをお願いするにあたって、この規約があることによって、アドバイザーをするには技術委員会に入ってもらわなければなりませんという誘い方をしてきた経緯は実はある。それでアドバイザーになるためのハードルが一段あがってしまっているの、その足枷をなくしたい。運用と実際の乖離があるということ自体よりは、その足枷をなくしたいということが、規約を改正したいモチベーションになっている。
大西	この規約には、インカレのアドバイザーの人が技術委員会の中にいることによって、学連がイベントアドバイザーを通してインカレをコントロールするという意味合いを持たせてあると思う。最近では、インカレ実行委員会を学連の外部の人に委託する場合、メーリングリストにだけ入ってもらって、分からないことがあれば聞いてもらう

	<p>という形を取り、技術委員会の仕事はしなくて良いという風になっている。ただ、私の知っている限り、実質的に何か質問が来たことは無く、トラブルなどは実行委員会内で対処している形になっている。ここ最近としては、メーリングリストに登録するのは嫌だという人もいて、実際には理事会に指名されていて技術委員会に全く関与していないという場合もある。</p>
木村	<p>これはガバナンスの問題であると思う。学連の統治として、インカレを誰がコントロールしていくかという問題となる。外部団体であることが多い実行委員会をコントロールしているのはイベントアドバイザーであり、その人をコントロールしている所が学連から離れてしまうと、それは学連のガバナンスではなくなってしまう。だから、名前だけでも組織の中に入ってもらわないと、学連の統治の中にインカレが入らなくなってしまう。運用の話と建前は少し違う。</p>
海老	<p>それは、例えば技術委員会から推薦をして、理事会が指名するという形であっても、その点は担保できないのだろうか。</p>
木村	<p>指名された人が、学連や理事会の中にいるという形をとるべきかと思う。指名した時点で、ガバナンスが効いているといえば効いているが。</p>
海老	<p>それはやはり理事会で話をさせていただきたい。実際にはアドバイザーはこのような状況になっているということは認識してもらって、理事会で話をした後、幹事会に持ってきてほしいと思う。</p> <p>2つ目は、前回の幹事会でお話しした来年度春インカレについての途中報告となる。トレインに関しては再来年度が関東となり、その次が愛知になるかと思う。4年サイクルでトレインを回して春インカレを開催する理由は、地区ごとに回すことによって新しいトレインができることが期待できる、偏った地区で開催しない、ということが基になっている。話がまとまり次第、幹事会や総会に正式に発表するが、来年度春インカレの日程に関して、従来は3月1週目ないし2週目の開催だったが、遅らせる可能性がある。例年3月の3週目は全日本大会があつて、やるとしたら4週目になっていくかなとは思っている。</p>
木村	<p>来年は、全日本大会は3週目に無い。</p>
海老	<p>ということは、春インカレの日程の幅が広がるが、来年度春インカレの日程は変わる可能性があるため事前に連絡させてもらいたい。また、参考までに、加盟校の皆さんにアンケートを取る可能性があるということもお伝えしたい。</p> <p>3点目について、皆さんと情報共有すると共に、今後どういう風にしていくかということを含めて考えていただきたい。春インカレでは原則前泊をしてもらうということになっていて、前泊を前提にしてすべてのスケジューリングを行っているが、毎年必ず、なぜ宿泊しないといけないのかという問い合わせがくる。このことについては、皆さんに情報を公開していないし、情報共有していない事項だと思う。このように連絡していただく加盟員の方は、家が開催地の近くにある等の理由で問い合わせいただくのと思うが、実行委員会</p>

	<p>としては、加盟員の皆さんを一律に管理させてもらうことで、競技的な面を担保する、様々なトラブルに対して反応しやすくしている。必ず前泊するという事は規約に書いてあることでは無いが、実行委員会としては、その方が良いだろうということで毎年前泊必須とさせてもらっている。先ほどのような問い合わせには、前泊必須であるということが加盟員の皆さんにとって最良ではないならば、しっかりと議論をして下さいということで返答をしている。今年も実際に、この類の問い合わせがあり、毎年実行委員会が悩んで回答させてもらっている。学連として、今までの体系を継承していくのであれば、総会なり公の場で春インカレについては原則前泊であり、そのことが競技的な面を担保させて、実行委員会は前泊に基づいたスケジューリングをしている、といったアナウンスをしてもらいたい。毎年実行委員会で、同じ回答を繰り返すのも大変である。不泊の申請についても学連としてアナウンスしてもらいたい。ロングに関しては、原則宿泊してくださいとは言っていないので、加盟員の皆さんがミドル・リレー(春インカレ)についても原則宿泊である必要は無い、と考えるならば実行委員会としても改めて設計を考えなければならないと思っている。どういう風な形で意見を募集するかは任せるが、前泊の必要性やアナウンスに関しては議論してほしいところである。</p>
齋藤	<p>今年のインカレスプリント・ロングに関しては、たまたま周りに宿泊施設が多数あるというロケーションで、かつ、富士見リゾートが全て手配してくれた。スプリント・ロング同時開催がありきではないが、今後は一緒にやっていくと思うので、宿泊施設の確保等の問題にも影響してくるということを考慮してほしい。今年度インカレスプリント・ロングの要項にも書かせてもらったが、地元の宿泊施設を利用することが地元渉外的な話としてもかなりプラスな話であり、色々な側面があると思うので、そのあたりも考慮してもらえればと思う。</p>
五味 海老	<p>原則前泊が必要であるか、ということ加盟員の総意として判断すべきということか。もし、必要ではないという意見が多いのであれば、根本的にスケジューリング等を見直さなければいけないと思う。特定の人だけが必要ではないと言うのであれば、申し訳ないが、色々なメリットの方が大きい可能性が高いので、原則前泊するものだという認識を加盟員の皆さんに持ってもらいたい。</p>
五味 海老	<p>原則として前泊が必要と判断された場合は、アナウンス・広報するという形で良いだろう。必要か不必要かという意見はどうやって取るべきだろうか。</p> <p>次回総会が今年度ミドル・リレー後にあると思うのでその時かとは思いますが、やり方についてはまた個別に相談しなければならないと思う。前泊について加盟員から何か意見があれば聞きたいし、無ければ原則前泊であるということ認識してもらいたい。それに派生する話として、ミドル開催日の前日は宿泊できない等という場合は理由を聞いて、実行委員会が妥当と判断すれば宿泊しないことを認めている。ただ、毎年判断がぶれるところがあって、このケースは不泊を認めないが、このケースは認めるといったようなことは皆さんに基準を公表しているわけではないので、今後基準を明確</p>

	<p>化して申請を受け付けるようにはしたいと思っている。</p>
齋藤	<p>今年不泊の案内は初めて出したのではないか。</p>
海老	<p>そうである。</p>
齋藤	<p>そもそも不泊の特例措置を設けて、申請を受け付けるようになったのも、ここ最近になってからだったはずである。</p>
海老	<p>宿泊関係の話は、どこを原則にするかを皆さんで話し合ってもらいたい。</p>
	<p>4つ目は、特例措置の件である。特例措置は平成14年度、15年度から始まった。もともと4人制だった男子選手権リレーが、4人揃えられる大学が少なくなってきたこと、上位と下位でタイムが開きが出てきたこと、世界的に3人リレーが主流になってきたことから、4人制から3人制に変わった時期があったが、その時に特例措置が初めて行われた。その後も、特に女子リレーにおいて、3人集められない学校が出てきたり、上位と下位の差が大きくなったりして特例措置が行われたが、最近では、前年度特例措置が行われたからという理由で続けられてきている。このように、最近では毎年のように特例措置が行われているので、規約化しようという話があるかもしれないが、そもそも特例措置を継続するかどうかということを議論し、やるとするなら規約化した方が良いのではないかと考えている。特例措置を最初に発議したのは理事会のようだが、その根本的な動機は、加盟員の少ない加盟校において、選手が集まらないことを理由に選手権の部に出場できない選手に、学生オリエンテーリング界の最高水準の競技機会を提供するということであった。現在では、特例措置に関して、前年度もあったからという理由がメインに来ているし、今年については、良い悪いは別にして、3名以上加盟員がいる大学についても特例措置を認めるということになっている。何のために特例措置をやるか、という根本の部分が薄くなっているように感じる。その部分を皆さんにゼロベースから考えてもらいたいというのが今回の話である。不泊の申請も初めは一切受け付けていなくて、皆さんからの要望に個々に対応する形を取ってきた。特例措置についても、同じ大学の選手3人で選手権を争うというのがリレーの根本の考え方であり、3人集まらないという加盟校に対しても選手権を走らせてあげようとしたことから特例措置は始まっている。一つの考えとしては、特例措置を認めないということもありだと考えている。それを、幹事会なり総会なりで議論してもらいたい。今後も特例措置を認めるのであれば、きちんと規約化してもらい、特例という形では無く、ルールの中で行う形にしたいと考えている。今年度に関しては、特例措置に関するアンケートはしてもらっているので、全体としての意見はある程度把握しているが、ベースは決めてもらいたい。</p>
木村	<p>特例措置について、毎回発議されているか。</p>
海老	<p>今年に関しては、発議はされていなくて、前年あったから今年もあるだろうという形になっている。</p>
木村	<p>個人的な意見になるが、一度特例措置をやめてみたらどうか。</p>

五味	現在、人数が少ない大学は複合で走れるという認識になっていると思う。
木村	根本的なところでは、人数の少ない大学は人数を増やす努力をするべきである。
海老	そもそもは3人同じ大学で競うというのがリレー選手権であると思うので、3人いなければ自分の大学の人数を増やすべきだ、というところをベースにしなければいけないと思う。人数は足りているけど、1人は選手権を走るレベルにないというのであれば、その人が選手権を走れるレベルになるにはどうしたらいいのか、という考えに本来持っていくべきではないのかなと個人的には考えている。その点に関しては、ルールの中に改正を求めるのではなく、大学内で、認識なり競技レベルを高めるにはどうしたらいいのか考える方向に持っていくべきだと考えている。
木村	甲子園行くのに他の学校の人を混ぜるのはあり得ないし、箱根駅伝でも学連選抜は特殊である。本当に特例であり、それに出られるから良いと思っている選手はいないだろう。それよりも、箱根を同じ大学10人で出場したいというのが普通だろう。
五味	私もそう思う。自身の競技レベルに関係するだろうし、一概には言えないが、女子リレー選手権の2走を短くする話も、この話と同様であると思う。2走があまり走れないから短くしようという意見に対し、2走を走る人のレベルを上げれば良いという考えもあるのに、3人以上の大学に特例措置を認めた例以上に顕著に、ほぼ全ての大学が2走短縮に賛成した。私としては、根本として、大学内で選手権を走れる人を揃える努力をするべきだと思うが、学連全体としては、学連の現状に規則を合わせようとする傾向が強いように感じる。
木村	技術的な話はそれで仕方が無いと思うのだが、特例措置に関して、人数を揃えようというのは技術以前の問題であると思う。確かに、今言っている2走を短くするという問題そのものは表面的には同じだと思うが、そもそも3人に揃えるかどうかということは、何を原則として選手権を競うかという問題だと思う。暴論を言うと、2人だったら選手権は走れない、3人同じ大学だから走れる。2人だったら選手権に出られないというのが、本来の原理・原則に則ったものだと思う。その原則がどうあるべきか、というのを皆さんに議論してもらいたいと思っている。
齋藤	特例を受ける側が、あくまで特例であるという認識がなくなっている。
海老	不泊に関しても、春インカレでは原理・原則としては2泊してもらうことになっていて、ベースをどこにするかは皆さんと認識を共有したいと思う。私としてお伝えしたいことは以上である。
木村	幹事会の皆さんから特に意見を聞きたいということでは無いのか。
海老	インカレ実行委員会側としては、学生の皆さんが決めたことに則るということを重要視したいのであるが、一方でインカレは毎年継続しなければならないものであり、継続を担保するためにはあまり複雑なことを色々するのではなく、ぶれない原則みたいなものがないといけないと思う。ベース・原則については、システムチックに実行委員会の方で継承して運営していき、手間なことには労力を割きたくないというのが本音

	<p>ではある。ロングとは違うということではないが、特に春インカレは負担が大きいので、その部分については簡素化していきたい。担当理事個人の思いでもあるため、実現していきたいと思っている。特に意見を聞くというよりは、総会でそういう議題なり話題を出してほしいという思いである。</p>
五味	<p>今後の展開としては、次の総会に向けて、お二人がおっしゃった意見を文書化して提示し、各加盟校の反応を待つということが良いか。</p>
海老	<p>そうしてもらいたい。ただ、文章に関しては私が作ることにしたい。</p>
五味	<p>では、幹事会として行うこととしては、文書をいただいて各加盟校に展開し、反応を見るということが良いか。</p>
海老	<p>そうしていただきたい。</p>
齋藤	<p>今まで作ってきたベース・原則はそれなりの理由があって守られてきたものであり、特例はその部分も含めて揺るがずものであるから、これらの特例に関する話は、自分自身がどうしたいかではなく、全体(学連)のことを考えて各加盟校で話し合っしてほしいと思っている。</p>
木村	<p>現在、実施規則にはないけれども、前泊を原則としている。これは実行委員会主管都合というものであるが、毎回そのことは周知した方が良いと思う。実施規則には無い事項なので、約束事ではない。春インカレとしては、前泊前提の設計になっているということは、要項などで言った方が良くと思う。スポーツ全般で言うと、マルチデイスポーツは、前泊が前提の大会は沢山あって、良く見られるのは一泊の宿泊と競技会がセットになっているというものである。</p>
齋藤	<p>日本旅行なども、ある程度の宿泊者が確保されているから契約が結ばれているのであって、それが担保されないととなるとこれから引き受けてくれるかといったことにも影響してくるので、その点なども考慮してほしい。</p>
木村	<p>山の奥で行うというオリエンテーリング競技の性質上、ファシリティーも弱い中、どうやって選手を送り込んで、競技を成立させるかという観点で実行委員会は運営している。また、インカレの理念として、選手権だけではなく、エントリーした人全員を広く受け入れるということをやっている。そこまで考えて、宿泊前提ということになっているということも考えてもらえればと思う。</p>
五味	<p>これで大丈夫だろうか。</p>
田中(悠)	<p>気になったのだが、不泊の関係で加盟員から意見が欲しいのであれば、目安箱の時に議論となった学連に関するアンケートを取るのと同時に、前泊が前提であることをどう思うか聞いても良いのではないか。</p>
齋藤	<p>そのようなアンケートの取り方をすると、ここまでの議論が伝わっていないまま意見を聞くことになり、自分の都合を考えた意見ばかり集まって、大変になるだろう。</p>
五味	<p>個人に聞くと安直な意見が返ってくる可能性が高いだろう。後は何かあるか。無いようなので次に行きたい。</p>

8. インカレスプリント・ロングについて

－議論の概要－

2015年度インカレスプリント及び以降のインカレスプリントに関して、インカレスプリント実行委員長齋藤氏よりアナウンスがなされ、意見交換が行われた。またインカレスプリント・ロングの渉外問題及び日程問題についても討議された。

－発言内容－（敬称略）

齋藤

2015年度インカレスプリントに関して、これからインカレスプリントをより良くしていくために、主に今年度インカレスプリント参加者の意見を聞きつつ、来年度幹事の方にこれからどうしていくか考えてもらえればと思う。今日は意見交換だけで良いので、実行委員会に何か意見がある場合は次年度6月の幹事会で言ってもらおうという形にしたいと思っている。まず、決算の報告について、今回は地図調査をNishiPR0に外注して、いつも通り地図印刷は山川氏がやるという形としたが、最終的な黒字額としては8万円程度だった。今回は特殊で、今年度インカレロングで使用した富士見の森という地図はもともと東京OLクラブの地図であり、長らく放置されていたものをインカレのタイミングで復活させた形となっている。

今回、主催団体が黒字をもらっているのが、これを学連に入れさせてもらいたいというのがまず1つ目である。例外的であるが、受け手が誰もいないので学連に入れさせてもらいたい。実行委員会としては、要求があれば、是非次のインカレスプリント等に回してもらえたらと思う。基金を作るとまではいかないが、今後スプリントが入ることで費用の上積みになるため、次の実行委員会から要求があれば柔軟に対応していただけたらうれしい。次に、今回インカレスプリントに関して、皆さんにいくつか伝えたいのと、皆さんからいくつか意見を聞きたいと思う。チャレンジクラスでもスプリントのコースを走ったと思うが、コース上に沢山人が配置されていたかと思う。実はコース上に人との接触等を防ぐために、22人も置いていた。競技責任者からは22人以上欲しいと言われていたが、予算の観点からきついということで、かなりせめぎあいをして落ち着いたのが22人だった。だから、本当はもっと人を置きたかった。一般の人との安全面を確保するためや、通行禁止エリアの監視のためには最終的にはこれだけの人員が必要だったということは知っておいてほしい。特に上の建物の箇所には半分程度配置されていた。一般の人が多い、かつ、建物が多いという場所がスプリントとしては楽しいトレインとなるのだけれども、楽しいトレインを探せば探すほど人手は必要になってくる。普段のロングなどでも、誘導で人が立っていたりするが、スプリントでは人が1人ぶつただけで競技成立・不成立に大きく関わってくる。

次は、演出について。一昨年インカレスプリントの最後の実験大会があったと思うが、大体スプリントの演出というと、観客全員を会場に押しとどめておくというアリーナ型の観戦方法を取るが、一昨年の実験大会では、地図をもってどの場所で観戦しても良いという形にしたと思う。世界選手権ではそれが一般的であったりはするのだ

	<p>が。アリーナ型の特徴としては、演出の資料を集中でき、観戦者を一箇所に集めることにより盛り上がりが出る。一方フリー観戦とすると、コース内の観戦したい場所にもどこでも行けるので、トップ選手のナビゲーションをしている姿を間近で見られる。インカレの第1回スプリントであり、成立を優先したいということや、インカレの応援だとみんな会場にいることが多いのではないかと、また今年度については高低差のあるテレインで上まで行く人はそうはいないだろう、ということでアリーナ型を採用した。観戦方法がどうなるかは、大会ごとで判断が異なってくると思う。これも皆さんに知ってほしいことである。また、競技責任者がアリーナ型を採用した理由として、日本の学生はスプリントの観戦の仕方を分かっていない、観戦しに行くことで選手の通行を妨げる可能性が非常に大きい、といったことが挙げられる。観戦者のマナー的なものがこれから学生の中に普及していけば、フリーの観戦方式を採用する余地はあるのかなと思っている。</p> <p>次に、スプリントの速報ボードについて皆さんに話を聞きたい。実は今回特別な演出はしてなくて、基本的に速報ボードを出し、実況をするといったように、普通のインカレと違うことはしていない。30%地点・50%地点・最後に速報ボードを出したが、ロング等とは違い非常に大変だった。皆さんに聞きたいのは、この速報ボードをどこまで見ていたかということ。エリートではなく、観戦していた人はどこまで見ていたか。</p>
高橋	<p>トップスタートの人等はすごく見たが、真ん中の人や後の人に関しては、序盤の情報などはあまり見ていなかった。</p>
齋藤	<p>他の観戦者はどうだったか。</p>
松浦	<p>どちらかというと、ボードを見ていたというよりは、実況の方を聞いていた。最初の30%は速報ボードを気にしていたが、次の50%はあまり見ていなかった。</p>
村瀬	<p>正直ほとんど見ていなかった。選手がスタートしてからゴールするまでが短いので、自分の学校や知り合いを応援していると、速報ボードを見る時間が殆どなかった。</p>
齋藤	<p>理想は、中間地点などはオンラインコントロールでスクリーンに映像を映す、といったことだが、そこまでのお金は無いのでできなかった。結局中間を速報ボードでやるということにしたら大変になった。特にビジュアルの中間の所では、正確なタイムより、選手が走っているのを見るだけで十分なのかなとも思ったのだが、どうだろうか。</p>
田口	<p>私は選手権を走らせてもらったが、実況で〇〇選手が来ましたといってもらえただけですごく嬉しかった。速報ボードは、スプリントに関してはあまり重要ではないのかなとは思った。</p>
齋藤	<p>そうすると、皆さんとしては、速報ボードはそんなに大事ではないのかなと思う。もちろんゴールした時の記録はインカレ的に必要だが。</p> <p>次に、観戦ガイドはいつも通り配ったが、ルート解説のホームページも今回作った。これは、当日アナウンスをする予定だったが、渉外の対応でアナウンスができなかつ</p>

	<p>たため、見ている人は非常に少ないと思っている。スプリント選手権を走らないで観戦していた人の中で、このルート解説ホームページを見た人はいるか。(→観戦者16人中5人挙手)</p>
高橋	<p>口コミで広まった。</p>
松浦	<p>しかし、チャレンジクラスで出走するから見ないという人が多かった。</p>
齋藤	<p>コース解説が報告書でもあるが、ホームページはそれとはまったく別物である。3分の1程度はこのホームページを見ていたということで、思ったより見ていたのだなと感じた。これは普通の観戦ガイドの裏に印刷したのではなく、観戦用に販売した地図の裏を見てホームページに行けるようになっていた。観戦用の地図は無料配布でも良かったが、競技用の地図との不公平感が出ると思い200円で販売したが、どうだったか。</p>
坂野	<p>紙質が普通の紙だったので、それで値段が200円かと思うことはあった。</p>
齋藤	<p>同じ紙質だったら、競技用の地図はもっと高いので、観戦用の地図ももっと高くなるが、普通の紙質で安いのと、競技用と同じ紙質で競技用と同じ値段ではどちらが良いと感じたか。</p>
坂野	<p>それなら販売地図かなとは思う。</p>
齋藤	<p>当日印刷した時に思ったより紙質が悪くなってしまったので、もっと良いものを作りたかったという思いはあった。参考になったのでありがたい。一つの取り組みとしてこういうことを行ったので、見てない人も含めて知っておいてもらえると嬉しい。来年以降もこのようなことがあった方が良いのであれば実行委員会にお願いすれば良いし、今意見を聞いた感じだと、もう少しやり方を検討した方が良いのは間違いないと思う。また、チャレンジクラスに出走した人で地図を事前にもらった人はいるか。(→挙手無し) 地図を見て観戦できるようにするために、今回、地図を事前に貰える様にした。事前に貰えるということを知っていた人はどれほどいるか。(→挙手多数) そうすると、自分が走る前に地図を見たくないから貰わなかったということで了解した。</p> <p>また、今回かなり議論になったのだが、チャレンジクラスの出走人数について、最初は、短い間隔で出走させると、一般の人と接触する可能性も高くなるということで、定員を100名に設定していたが、300人以上の申し込みがあった。しかし、チャレンジクラスは予算的にかなり大きい部分であり、200人全てを切ってしまうと、何十万も収入が無くなる。また、折角申し込んでくれたのだから走ってほしいという思いもあり、競技責任者は反対したが、強行で走ってもらった面がある。選手権が終わった後の時間に、チャレンジクラス出走者を均等に割り振ると、真ん中の人達はモデルイベントに行けなくなってしまう、という問題もあり、真ん中に出走しない時間を設けて、前と後ろの時間帯に出走時間を縮めたことで10秒間隔のスタートとなってしまった。実行委員会としては、皆さんがモデルイベントに出られるようにする代わりに、10秒間隔のスタートという形をとった。これに関してはどう思ったか。</p>

高橋	せわしなくて、余裕が無かったとは感じた。
齋藤	10秒間隔のスタートについて、思ったのと違って正直出走しなければ良かったと思ったのか、思ったより楽しめたと思ったのか、どちらだろうか。
藤田	私は純粹に楽しかった。10秒間隔だから前の人とかち合ってしまうとかはあまり無かった。逆に沢山人がうろうろしていたので、自分を信じないといけなかったのが良かった。
新粥	思った通りせわしなかったと思った。運営が大変そうだなと感じた。
齋藤	結局、良かったなと思ったのか、これだったら次回は考えるなと思ったのかを知りたい。
新粥	出来れば15秒から20秒間隔は欲しかった。
齋藤	全員出そうと思ったらそれは無理になってしまう。それだったら抽選にして、定員以外の人を切るようになってしまう。短い間隔で全員出すのと、定員で切って時間間隔を確保するのだったらどちらが良いか。若しくはモデルイベントを切るか。正直言うと、チャレンジクラスの競技性は犠牲にして、出走して楽しんで貰うことを優先した。
新粥	それなら、今回の感じで良いと思う。
齋藤	他にはどうか。
瀬川	参加して楽しかった。10秒間隔でも良いかなという気はした。
細	普段できない10秒間隔のオリエンテーリングができて楽しかった。ただ、スタートの役員の方が大変そうだった。出走する側の人から10秒間隔の出走に追いついてない感じがした。
新幹事	10秒間隔だと、走る前は、前の人についていだけでつまらないと思ったが、やってみると周りに人がたくさんいたので、色々な人のオリエンテーリングが見られて良かった。
新幹事	10秒間隔でも普通のレースで、楽しかった。
齋藤	参加者全員に聞けば、参加しなければ良かったという人もいるのかもしれないが、ここで聞く限りは、そういう意見は無かったので少し安心した。これらの点は引継ぎ事項とさせてもらいたい。
小泉	抽選をやるとしたら、セレクションでぎりぎり通らなかった人たちを考慮してほしいという意見を聞いたがどうだろうか。
齋藤	セレクションに落ちたという意味では一緒であると思うから、何とも言えない。
小泉	インカレ本番で走った人とタイムを比較したいということで、頑張った人と、言い方は悪いが何もなかった人を同等に抽選してほしいという意見だろう。
齋藤	もしそういう意見があるならば、次の実行委員会に言ってみたいとしか言えない。実行委員会次第だが、かなり難しいことだと思う。
	また、今回の大会におけるモデルイベントトレインでの渉外問題に関して、この類は全国的に起きてもおかしくない問題だと思う。渉外的な話に関しては、今回のトレインに限らず、トレインは簡単に使えなくなってしまう。大きいクラブであればあるほど、渉外に関

<p>大西 齋藤</p>	<p>する教育が行き届いていると思ってはいたが、そういうわけでもないようだ。渉外に関する意識づけを総会なり、地区学連総会なりで徹底させてもらいたいと思っている。</p> <p>細かい経緯を話した方が良いのではないか。</p> <p>そもそもモデルイベントのエリアを事前に公開するということ自体、インカレロングとして新しく行ったことだった。それにあたって、モデルイベントトレインを使用する際、実行委員会に日時等を連絡するようにと定めていた。その連絡を受け取ったら、実行委員会が富士見高原リゾートに連絡をするという形になっていた。実行委員会は、インカレ本番の競技に影響しないように、駐車場の位置やトレインまでの移動ルートまで定めていた。渉外問題を起こした大学は、それを破った。その時点で十分あり得ないことだが、さらに、地元ペンションの駐車場を勝手に利用した。これらが今回の渉外問題の経緯である。実行委員会が赴いて、ペンションを営営されている夫婦の理解を得ることができたので、ルールをさらに変更してモデルイベントトレインの使用を再開できた。ペンションの経営者の方の理解がもらえなかったら、大会は開催できなかった。軽はずみな行為が、重要な影響を及ぼしかねないということを考えて、上級生から下級生への教育をきちんとしてほしいと思う。以上である。</p>
<p>大久保</p>	<p>話を戻すが、今回の黒字を学連に入れるということであったが、平野氏から学連の口座に振り込まれるということが良いか。</p>
<p>齋藤</p>	<p>それで大丈夫である。2月中に振り込まれると思う。</p>
<p>五味</p>	<p>他に何かあるか。</p>
<p>大西</p>	<p>スプリントをやる場合は、モデルイベントは必ずしもできるとは限らない。今回は歩いて行ける場所にモデルイベントトレインを用意できたが、それでも全員にモデルイベントの時間を与えるのに非常に多くの議論がなされ、負担も非常に大きかった。これが毎年続けられるかと言われると、恐らく難しいだろう。正直モデルイベントを必ず開催する余裕がないと思うし、そうしないなら、スプリントのチャレンジクラスを開催しないという形になるかもしれない。このどちらかになっていくのではないかと思う。これまでを見ると、インカレロングに関しては、モデルイベントは無いことも多かった。外部の団体に任せる時などは、モデルイベントは無いことが殆どである。幹事会で考えることかどうかは難しいが、モデルイベントは無くなる可能性があるということは考えてもらいたい。</p>
<p>齋藤 木村</p>	<p>モデルイベントはインカレ実施規則に書いてあることではなく、実行委員会の裁量である。モデルイベントは開催することが望ましい、といった記載になっている。</p>
<p>齋藤</p>	<p>モデルイベントがあることが当然と思わないで欲しいというものもある。ちなみに、今年度インカレスプリント・ロングはこれ以上無いロケーションで行っている。会場が近くて、綺麗で、地元の理解がある所だった。今回のインカレスプリント・ロングを基準に考えない方が良いだろう。</p>

田口	インカレスプリント・ロングに関して、日程調整が大変だろうが、遠方の大学が移動に時間が掛かった後にすぐスプリントが開催されたのは辛かったという意見がある。他の大学も同じだと言えばそこまでだが、スプリントを先に行うのは少し辛かった。
齋藤	モデルイベントを先にやってほしかったということか。
田口	スプリントは一つのミスが成績に大きく関わってくると思うので、移動のすぐ後は辛かったということである。
齋藤	それは、スプリントとロングを一緒に開催する限りは仕方が無いことだとは思いますが。モデルイベントを無くすとか、色々なものを犠牲にして、スプリントを14時や15時から開始することはできるが、それだとチャレンジクラスの出走もできなくなってしまふ。スケジュールの要望については、次の日程が公開されたら、実行委員会の方に希望を言ってもらえば良いかなと思うが、あまり現実的ではないと思う。当面、スプリントは別日程では成り立ちにくいと思うので、スプリントとロングを一緒にやっていくうちでは厳しいと思う。具体的なスケジュールを提示してくれるならまだしも、遠方の大学を考慮してほしいというだけではなかなか厳しいと思う。何か良い考えがあれば言ってほしい。
田口	三連休があればありがたいが、都合よくあるわけでもない。
齋藤	10月の三連休はあるが、富士見高原リゾート等は観光地なので厳しいとは思ふ。ロングだけならともかく、観光客が多い中、さすがに何百人もその中を走らせるわけにもいかない。次に開催する場所が観光地でなければ、三連休に行くことはできなくもないと思うが、ケースバイケースとしか言いようがない。他に何かあるか。
細	個人的な質問になるが、今回DISQの量が多かったが、あれは想定内の量か。
齋藤	ポスト飛ばしに関しては想定外だった。その点は反省しなければいけない点である。確かにレッグが直線状にはなっていて、運営側も試走を重ねていたが、あそこまでポスト飛ばしが出るとは思っていなかった。しかも、あそこのレッグがスプリント的には勝負レッグで面白いところであったので。ただ、驚いたのが、ビジュアルの前の崖を飛び降りる人が続出したことで、まだスプリントをやる程ではないのかなと思うこともあった。女子の失格は、ポスト飛ばしよりもそのようなものが多かった。女子としては、失格の15人中ポスト飛ばしをしたのは4人だけだった。男子は失格になっているのは60人中17人であり、ポスト飛ばしは8人だった。恐らく走るスピードの違いだとは思ふ。少なくとも、建物の中のポストに関しては、運営側としては想定外だった。不成立にするほどではないと判断したが、直線レッグについては運営側として反省点だった。それ以外の失格については今回の1回目を教訓にしてもらえばと思う。
五味	インカレスプリント・ロングの報告書は近日中に公開したい。冊子を希望している人は恐らく春インカレでの配布となると思う。 では次の議題にいきたい。

9. テレイン使用申請の書式と方法の見直し	
<p>－背景－</p> <p>現行のテレイン申請の形式では、重複した内容の報告書を異なる宛先に送る等、手続きが煩雑になっており、連絡が徹底されず渉外活動に支障が出ることもある。そのような状況を改善するため、新たなテレイン申請の方法が渉外部より提案された。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>渉外部長より新たなテレイン申請方法のアナウンスが行われた。それを受けて、テレイン利用申請書の内容及び書式に問題ないか討議した。</p>	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
橋場	<p>来年度4月から、矢板・日光のテレイン申請の方法を変えようと思っている。申請方法の見直しに関する資料を見てもらいたい。練習会や合宿などで、矢板・日光のテレインを使う場合、現在は、学連事務局、学連渉外部及び山川氏に申請メールを送って、地図購入申請を山川氏に行う形になっている。その他に、栃木県協会に申請をし、それを管轄している関東学連の方にも申請を行う形となっている。現行の形式では、内容の重複があり、送り先が多いことから、手続きが煩雑になっている。これにより、連絡が徹底されず渉外活動に支障が出ることもある。それを変えようと思い、新案を提示させてもらいたい。新案としては、各大学・クラブの渉外担当は、学連事務局のみに申請書を送れば良く、その後の作業としては渉外部が栃木県協会及び関東学連に連絡をし、山川氏に対する地図購入申請も事務局への申請書で兼ねることができ。現在は別々の送り先に、別々の申請書を送らなければならなかったが、様々な送り先への書類を学連への申請書で統一しようと準備を進めている。これを進めるにあたって、事務局や渉外部の負担が増える懸念はあるが、実際、事務局のみに申請が行っていたり、山川氏のみに連絡が行っていたりと、渉外部になかなか連絡が来ないことがあり、確認作業に手間が掛かっている。このような現状であるので、トータルで見れば負担は軽減するのではないかと考えている。申請書の内容に関して、現在の申請書にも不備が多くあるので、それを見直して新しい申請書を作成してみた。これを3月までに広報して、3月の総会で各加盟校渉外に直接説明をし、来年度4月から全て改定したいと考えている。これに伴いお願いしたいのは、ホームページで広報することと、ホームページの書き換え、事務局への連絡である。今回の幹事会で、疑問点や直してほしいこと等があったら、それを加味したうえで広報活動に移っていきたいと考えている。</p>
高橋	<p>テンプレートが一番上に、事務局殿という記載をした方が良い。</p>
橋場	<p>他にも何かあれば意見をお願いしたい。</p>
山川	<p>話は逸れるが、テレイン利用の報告書に関して話が挙がっている。現在学連の地図の大半が350円となっているが、本来はもっと高い。350円という価格になったのは、普及のためという意味が大きい。これはどういうことかということ、皆さんが一方向的に</p>

	<p>地図のサービスを受けるのではなく、地図は学連の共有の財産であり、放っておけばテレインが悪くなっていくのは当然なので、もし地図で直してほしいところがあればきちんと報告書で話を挙げてほしいと思っている。渉外上の小さな問題等も含めて、テレインの状況が大きく変わった場合に、調査が必要かどうかという判断はつかないかとは思いますが、報告は挙げてほしい。そのことを報告書に明記しようという話が出ている。350円という値段は、決して一方的にサービスを受けている値段ではないことを理解しておいてほしい。報告書は学連と栃木県協会共通のフォーマットを作り、そこに地図の不具合がある場合には申告し、山川がそこを調査して直す必要があると判断した場合は、地図会計を使用して答申するという形になればと思っている。</p>
橋場	<p>申請書に戻るが、何か改善点はあるか。</p>
新粥	<p>先程の高橋さんの意見と被るが、事務局としては申請書のヘッダーの部分に、日本学連事務局行きという記載と、事務局のアドレスを載せてほしい。そうすれば、渉外部や山川氏に直接申請が行くということは避けられるかと思う。また手引きの方にも、その記載をした方が良く思う。</p>
山川	<p>各大学のテレインの事前打診などを考慮して、どの大学が何日にどのテレインを使用するかということを調整しているのだが、その相談機能も渉外部の方でやれたらと思っているが、まだ詰め切れていない。</p>
橋場	<p>今の時点で渉外部が全てやることは無理があるので、その点は追々考えていければと考えている。渉外関係で山川氏を詰めるところはまだ残っていると思う。</p>
山川	<p>地元には迷惑は掛けられないので、調整作業は引き続き山川の方で行っていく。</p>
橋場	<p>今回は、申請方法に関して、先程話したように大きく変わるということを報告させていただきたい。関係する事務局、広報とは後程また個別に話し合いたい。最後に、様式ができて、申請方法について詰める作業が終わったら、各学連について渉外への報告をお願いしたい。以上である。</p>

10. 事業計画報告	
—背景— 学連の事業計画(新機軸事業)を利用して、昨年 11/29(日)に KOLC 復活大会が開催された。	
—議論の概要— KOLC 復活大会実行委員長である小泉氏より、事業計画(新機軸事業)利用に関する報告が行われた。	
—発言内容— (敬称略)	
小泉	前回筑波大大会が事業計画を使用した際に、報告書を提示していたので、それにならい KOLC としても報告書を作成した。今回事業計画を利用した経緯としては、KOLC の総会の方で大会を開催しようという声上がり、当時は当てがいない状態であったが、昨年度の幹事に小泉と田中悠が参加した際に、事業計画の存在を知り、今回利用に至った。昨年 3 月に山川氏に事業計画の利用を打診し、4 月末に挨拶を行い、今後の予定について相談をした。つまり、大会の半年以上前に打診していたという形になる。ちょうど半年前である 5 月から活動を始め、トレイン見学や、9 月、10 月、11 月に試走を重ねて本番を迎えた。トレイン見学までは順調だったが、試走等は山川氏の都合等で後ろにずれこんだりして大変だった面はあった。また、前日に一部伐採が入ってしまったことが判明し、前日に調査をし直して、シーリングのやり直しを行った。以上のことから、今回のように事業計画を利用する場合は、外部(ここでは山川氏)とのスケジュールの兼ね合いとなってくるため、あまり厳密にスケジュールを決めすぎない方が良くもしいない。ある程度ゆとりを持って予定を組んだ方が良いのではないかと、ということが今回 KOLC 大会を開催して思ったことである。次に渉外に関して、基本的に動き出しの方は山川氏を通して行い、山川氏と連絡を密に取る必要があった。トレインについては、事業計画の目的もあると思うが、打診をした時点で矢板と決まっていた。当初は、近くで開催できるものだと思って、スケジュールなどを考えていたため、突然の印象があった。事業計画で大会を開く際は、基本的に矢板地区での開催となるということは、告知しておいた方が良くと思う。事業計画は、今後も矢板を考えているのだろうか。
山川	そう考えている。
小泉	矢板での開催となるため、そのことはどこかにきちんと記載した方が良くと思う。
齋藤	ただ、そもそもこの話は学連の地図を利用できる、ということで始まった事業だと認識している。
小泉	いずれにせよ、ただ単に、地図を調査してもらえる事業ではないというのは分かるようにした方が良く。
山川	他の場所でも、学連にとってメリットがあれば可能ではあると思う。なかなか厳しいとは思いますが。
小泉	資材に関しては、山川氏から殆どの資材を借りることができたため、その点に関しては、新しく大会を始める大学・クラブにとってハードルが低くなる要因だと考えてい

	<p>る。まとめると、資材とテレインの面ではかなりリスクを軽減することができると思う。その反面、地図調査を外部にお願いする点で、スケジュールの兼ね合いが問題であるのと、テレインの場所の制約があると感じる。ここについては、次回以降、事業計画を使用する団体に、しっかり広報する必要があると思う。以上である。</p>
五味	何か質問、意見がある人はいるか。
松浦	この事業計画の記載は、山川氏以外にも調査を頼めるという前提で書かれているのか。
山川	山川以外にも頼むことができる。
齋藤	NishiPRO に依頼しても良い。
山川	決定するのは学連であるから、依頼することができる。京大や早稲田は独自でNishiPRO に依頼していたが、費用の工面が大変な時は、新機軸事業(事業計画)で申請するというのも一つの手である。そうすると大学の負担は減るが、地図は学連所有となり、渉外面も学連に頼らなければならない。
五味	では、開催地の記載に関して、矢板ということは書かないで良いということか。
小泉	矢板に限定はしないが、学連のメリットの関係で、場所の指定は学連がする場合は記載すれば良いだろう。
齋藤	やろうと思えば、好きな場所の地図を作ってほしいと頼むこともできるのだろうか。
山川	法律上は可能である。資金面などでのハードルは高いが。
五味	売り上げだとか、学連へのメリットの高さを提示できるのであれば、好きなところに地図を作ってもらうためにこの事業を使えるという認識で良いか。
山川	プロモーション次第で可能になる。
木村	みんなを説得できて、そこに投資をしようということになれば可能だろう。
五味	では、今の KOLC の報告を今後に生かしていくこととしたい。次へ移りたい。

11. 地図会計について	
— 議論の概要 —	
山川氏より昨年開催の KOLC 復活大会に関する報告及び学連地図の会計報告が行われた。また、地図会計担当理事より、YMOE 社と学連間の契約書作成に関して途中報告が行われた。	
— 発言内容 — (敬称略)	
山川	KOLC 大会の地図会計に関して、KOLC 大会の地図利用報告書(様式 6)に、地図について問題有りという記載があった。「日本学生オリエンテーリング連盟の地図の運用に関する規約」の第 11 条 2 項に記載の通り、KOLC 大会で調査予定だった箇所は、無償で残業調査を行いたい。
齋藤	皆さん、KOLC が出してくれた地図利用報告書は見たでしょうか。要するに、最初の契約どおりに調査ができなかったということである。地図調査を完遂できないようなことがあったら、責任をもって最後まで調査をしなければならない、と先ほどの規約に定めている。
山川	調査費用面について、KOLC 大会が開催された塩谷町はレーザー測量図が存在しないため、トレインの全域で通常より調査工程が一つ増えた形となり、藪が多いにも関わらず、前々回の筑波大学大会での調査日程を超え、いわゆる予算オーバーの状況となった。調査業者としては予算オーバーだが、残業してしっかり調査しようと思う。3 月 27 日の山川 Dream でのお披露目となる予定である。
齋藤	お金を支払うのは、調査が完了した地図を確認してからで良いか。次年度の会計に引き継いだ後になってしまうので面倒になってしまうが。
山川	それをお願いしたい。
大久保	現在、山川氏への支払いは、年度末に地図会計などを相殺した上で、まとめて行っている。その場合、精算が次年度にずれ込むので、逐一精算した方が引継ぎするのに楽である。会計が変わる時に関しては、支払いが年度をまたぐと大変なので、事務局の家賃はこの時期に支払い、地図会計はこの時期、といった様に、逐一精算をした方が良いのではと思う。
山川	事務局の家賃に関しては、今後、別精算で行っていく予定である。新機軸事業と地図会計は昔から相殺して精算を行ってきた。
大久保	それならば、従来どおり新機軸事業と地図会計は相殺で精算しても良いとは思いますが、会計が変わる年度については、精算をなるべく早めに行ってほしい。
山川	学連の地図売り上げの話に移ると、一昨年度の矢板インカレの時は 11,794 枚の売り上げ、昨年度の愛知インカレの時は約 8000 枚の売り上げだった。今年度は現段階で、7,898 枚の売り上げであり、一昨年度の売り上げペースを大幅に超えていて、これ以降も大幅な売り上げが予想される。今年度の新機軸事業である KOLC 大会の調査費用 160 万円を超える金額を学連に戻すことになる。事業的には大成功と言えるだろう。スプリントの地図に関しては、1 枚当たり 200 円の学連収入ではなく、1 枚当たり 150

	<p>円の学連収入としている。また、途中報告の段階で、今年度の売り上げが昨年度を超えているのは、筑波大学大会と KOLC 大会の初出分の地図枚数が 150 枚程度違うことに由来する。</p>
齋藤	<p>これに絡めて、地図会計関係の話をしたい。地図会計というよりは、学連と山川氏 (YMOE 社) の関係についての話である。新幹事もいることなので、これまでの経緯を説明したい。現在、学連は山川氏 (YMOE 社) に、学連の地図の印刷・販売及び、競技性確保のためのインカレ地図の提供を委託している。地図に関しては、地図販売額 350 円のうち、学連の収入分は 200 円であり、YMOE 社の収入分は 150 円となっている。サイズや縮尺が異なったりすると価格に違いは生じる場合もある。以前、2010, 2011 年までは YMOE 社では無く、ジェネシスマッピングという会社と学連の間で契約が存在した。ジェネシスマッピングの時は、プログラム・報告書の印刷や、メダル・レプリカ・賞状の提供等も業者としての契約内容に含まれていたが、その価格が高い上に、足枷になっていたため契約を解除した。その後は、実はしっかりとした契約が無い状態で、YMOE 社が業務を引き継ぐ形となり、現在、学連と YMOE 社との間の契約書が存在しない状況になっている。引き続き必要な業務については YMOE 社に委託する形となっており、学連と YMOE 社のお互いが一番良い風に落としどころを付けてやっている。現在は、その契約書の文面を最終段階まで詰めている所であり、来年度中の幹事会及び総会で提示し、契約としてしっかり結びたいと考えている。整理すると、学連から YMOE 社に委託する業務というのは、学連所有の地図の調整・販売や、学連が主催する行事 (インカレ・講習会・学連合宿) の地図の調整・印刷であり、専門的知識や経験を持った山川氏に、必要に応じて助言をいただくことができる、といったことが盛り込まれた契約書を現在作成している。以上が、現在契約書を作成している経緯である。</p>
齋藤	<p>先程の会計の精算の話が出ていたが、何に関する精算なのか。</p>
大久保	<p>一昨年度は、学連が支払う事務局の家賃、学連地図の売り上げ、山川氏が地図を作成するために学連が支出する金額、の 3 つを相殺して、山川氏に支払いを行った。一昨年度から昨年度にかけて会計担当者が変わったため、精算に関して把握するのが大変であった。昨年度は、事務局の家賃は別精算を行い、学連地図の売り上げ、山川氏が地図を作成するために学連が支出する金額、の 2 つを相殺して山川氏に支払いを行った。</p>
山川	<p>今年度は 3 月 31 日で地図関連の会計を締めて、すぐ精算できるようにしたい。</p>
齋藤	<p>では、学連の地図販売の精算は年 1 回で特に問題は無いだろうか。</p>
大久保	<p>全く問題ない。</p>
五味	<p>地図会計は以上で良いか。</p>
山川	<p>大丈夫である。</p>

12. 新機軸事業について

－背景－

今年度関東・北東・北信越合同ミドルセレクションにおけるテレイン修正調査において、事後報告を詳細に行うことを条件に、新機軸事業を利用することが承認された。20万円以下の予算執行のため、地図会計担当理事・幹事長・会計により承認された。但し、セレクション3週間前に事業利用の打診があり、且つ、新機軸事業が安易に使用されているように見受けられるため、新機軸事業の規約の順守が求められている。

－議論の概要－

山川氏から新機軸事業に関する事後報告がなされた。今回の3週間前の打診及び安易な新機軸事業の利用について討議し、山川氏に正式な手続きを経た新機軸事業利用を求めた。

－発言内容－（敬称略）

山川	昨年12月20日(日)に番匠峰古墳で行った関東・北東・北信越合同ミドルセレクションに関する報告が、YMOEのWebページに掲載されているのでその資料を見ていただきたい。
齋藤	
	新機軸事業に関する規約を読んでいない人は読んでほしいが、前提としては、20万円以下の事業に関しては、地図担当理事、幹事長、会計の3名の承認によって行われる。今回、関東・北東・北信越合同セレクションの実行委員会から、新機軸事業の利用の話があがってきたが、納得し難い内容であった。沢山お金が掛かるのだが、20万円だけ新機軸事業を利用し、その他はセレクションの会計から支出する形で修正調査を行いたいというものだった。普通に考えれば、他の学連の人たちが参加するわけでもないのに、学連のお金を使わなければならないのは正直良く分からない。しかし、今回は事後に、ha当たりの調査単価等をしっかり報告してもらう、ということ为前提に承認した。また、私として問題に感じることは、現在の新機軸事業では、6日の修正調査を行ったから20万円調査費が必要、といった様に報告を受ける形となっていることである。それだけでは、全く透明性が無いと思っている。地図修正といっても、色々なレベルの修正があって、一律で1日3万円と言われても、妥当かどうか判断のしようがない。だから今回は、どの程度の調査難易度で、どの程度の面積を修正するのかということを示すことを前提として、この新機軸事業を承認している。具体的に言うと、調査難易度については植生調査のみ必要なものを第1段階、地形の書き加えも必要なものを第2段階、一から調査する必要があるものを第3段階、等として3つに分けて、3つの段階ごとの面積はいくらずつかということを示してもらうことにしていた。その報告をこの幹事会でしてもらうということである。
大西	まず、資料がどれなのかが分かりにくい。
五味	地図規約様式 矢板地図修正である。
齋藤	まず、今回の修正調査の面積はどれくらいだったのか。少し資料がわかりづらい。
大西	66haと書いてある。
山川	ここの部分の調査はゼロからやり直した。

齋藤	GPS も入れて地形も書いたということで良いか。
山川	GPS を入れて、道を入れ直して、コンタを直して、植生を入れた。
齋藤	全体的に同じような調査を行ったということか。
山川	そうである。
齋藤	修正したのは、66ha だけなのか。
山川	そうではない。セレクションで使用した範囲は調査した。
齋藤	66ha 以外の、セレクションで調査した部分は今回の請求には含まれていないということか。
山川	その部分に関しては、実行委員会に請求した。
齋藤	その部分も含めて、面積等の数字を出してほしかったのだが。その部分の修正は植生の修正程度だったのだろうか。
山川	植生と道の修正であった。
齋藤	では、先程の3段階であると、第1段階程度ということで良いか。
山川	第1段階プラス少し、といった程度である。
	今回、金額としては黒字になったので、学連からの20万円はまだ支払っていただいてないが、実行委員会からは16万3666円を既に受け取っている。
齋藤	また、地図利用報告書(様式6)は山川氏が提出するものではなく、合同セレクションの実行委員会が作成し、提出してほしい。
小泉	分かりました。
山川	基本的には、もっと早くトレインの修正の情報等を知りたいし、セレクション程度のイベントは20万円以内で収めたい。報告にも記載している通り、セレクションが目的ではなくて、トレイン整備が主たる目的である。そのための手段がセレクションであるという考え方でいきたい。地図会計担当理事、幹事長、会計がトレイン整備の妥当性に関して納得できれば、20万円の事業は執行できるので、その程度で収められるように日頃の活動をしっかり行っていきたいと考えている。
齋藤	話がずれてくるが、今回問題となったのは、セレクションの実行委員会の形成が遅かったからではないのか。
小泉	かなり早い段階、8月か9月には動き出していた。
齋藤	地図の修正をしなければならないという話が出てきたのはいつか。
山川	大会の3週間前である。
齋藤	それは、実行委員会の体制が悪いのではないか。試走をセレクション3週間前までに1度も行わなかったということなのだろうか。
小泉	試走は行っていた。
新粥	行っていたという話は聞いた。
齋藤	あまりに突然であると感じた。事前に計画性を持った打診がなかったので、正直どこに問題があったのかも良く分からない。実行委員会の執行体制が悪かったのならば、関東・北東・北信越学連からもフォローするべきである。

小泉	テレインが番匠峰古墳に決定した時期としては、9月の関東学連臨時総会だと記憶している。
齋藤	その後すぐ下見に行っていないのだろうか。
小泉	行ったか、行っていないかは分からない。
齋藤	普通ならコースを組んで試走するとは思うが。
新粥	冬で藪が薄くなるだろうと考えていた、というのもあるのではないか。
山川	番匠峰古墳はテレインの状態が悪くなっているということは聞いていたが、修正が必要となるまでひどくなっていることは、3週間前の報告を聞くまで知らなかった。
齋藤	そもそも今回、新機軸事業の打診の連絡が来るまでは、山川氏も現地に入っていないということか。
山川	そうである。
齋藤	それはいかがなものか。とにかく、この新機軸事業は、急に困った時の救済措置でないことを分かってほしい。予め詳細に計画して打診するものである。
海老	今回新機軸事業のお金を修正調査に充てようとしたのは山川氏自身なのではないか。この問題は山川氏にあるのではないかと思う。
齋藤	そもそも、3週間前に、修正した方が良く分かること自体が問題なのではないか。
海老	3週間前に分かり、それを山川氏に発注する、ということと、山川氏が新機軸事業の20万円をあてにするとすることは別の話ではないか。
山川	20万円の範囲でやれると思っていた。
海老	そうではなくて、確かにセレクションの直前に山川氏に依頼すること自体が問題だとは思いますが、普通であれば山川氏にお金を支払うことで済むはずである。それなのに、学連の新機軸事業の20万円を当てにした山川氏が悪いと思う。
齋藤	確かにそうだが、セレクションの実行委員会も新機軸事業の話をしていただろうのではないかと思うが。
海老	私が聞きたいのは、今回、新機軸事業の20万円を使おうと判断したのは誰なのかということである。
山川	矢板の整備事業で新機軸事業の20万円を使うということは、6月(第1回幹事会)の段階から申請していたが、書類の不備で申請が通らなかった。
大西	それはセレクションに関係ないはずだが。
山川	セレクションには関係ない。
海老	セレクションを開催するために調査する、という理由は後付けではないのか。
大西	実行委員会は、もともとは、調査しなくてもセレクションが開催できると思っていたということだろう。
山川	日光でセレクションを行っている時は、修正調査は20万円の範囲で収まっていた。
大西	今回の修正調査に関しては、事前に20万円を使用するという申請はしたか。
山川	セレクションでは無くて、一般的な矢板の整備作業として申請をしたと思うが。
大西	それは、セレクションのための修正調査という意味では、申請していないのと同じ。

五味	結果的にその一般的な矢板の整備作業の申請も通っていないから、申請していないということになるだろう。
山川	その後、前回幹事会でもう一度申請を出した。
大西	それは、セレクションをやる前提で、修正調査のために20万円を使用する、という形で申請を出したのか。
山川	はっきりは覚えていない。
山川	前回の幹事会の時には、既に、セレクションを番匠峰古墳で行うということは決定していたか。
小泉	その時点では決まっていたのではないかと思う。
五味	いずれにせよ、前回幹事会等で、番匠峰古墳という名前を出して、修正事業を行うという申請は出していないのではないか。
山川	出していない。
海老	一般的な整備事業といっても、その事業のお金をどこに、どう充てるかが明確ではなかったから、第1回幹事会の時に申請が通らなかったわけで、このお金をセレクション・トレインの修正調査に充てよう判断したのは山川氏ではないのか、ということを手前からずっと言っている。
齋藤	それとも、セレクションの会計から依頼があったのか。
海老	実行委員会が、その学連のお金を見越して山川氏に依頼したということではないと感じるのだが。誰が、学連のお金を使用する判断を下したのかを知りたい。
山川	今までどおり、セレクション等の競技の公平性を保つために、具体的にどこのトレインを修正するという提示をせずに、20万円の修正予算内で柔軟に対応したという理解である。
海老	そもそも、毎年の慣例と言いながら、その申請はされていないと思うのだが。
齋藤	セレクションで使用するからといって、修正調査の申請は出されていたのだろうか。
山川	やっている。
大西	日光愛宕山の接合調査の時は行った記憶がある。
齋藤	セレクションのための修正調査の都度に申請は無かったような気がするが。
海老	そういう曖昧な点がいけない。毎年セレクションのための調査を想定しているのならば、9月にトレインが番匠峰古墳決まり、トレインがひどい状況であることが分かっていた段階で正式に申請することができたはずだ。
齋藤	また、今回に関して、本来は20万円以上の調査は正式な手続きを経て、幹事会で承認を得るべき案件である。しかし、調査の内の、20万円以下の部分を地図会計担当理事・幹事長・会計に承認を取って、それ以外の部分のお金を実行委員会に請求している。
海老	それは絶対におかしい。
山川	そこは反省している。
新粥	実際、昨年以前は、セレクションのための修正でいくら使うという申請をしているの

	ではなく、年度末の報告で、セレクションのためにいくら使ったと報告するに留まっていた。
山川	その報告の下に、次の年はどのような調査をしたいかを書いている。
五味	それは正式な申請にはならない。
齋藤	そのような所を透明化しようとして、新機軸事業に関する規約を作成したのだが、山川氏がルールを破る形になってしまっている。
山川	昨年度は規約の動いていない時であったので仕方がないと思うが。
齋藤	今回の番匠峰古墳の修正調査に関して、ルールから外れて新機軸事業を都合よく使っている、という意味である。
大西	ミドルセレクションが修正調査ありきで動いているのならば、セレクションが決まった段階で申請を出すべきである。
海老	3週間前に新機軸事業の打診が来たときに却下することもできたと思うが。
齋藤	セレクションができないのは大変だと考えたからである。全部の学連のセレクションならまだしも、関係ない学連の加盟費からも支出されるので、本来ならば実行委員会が参加費を上げてでも、お金を徴収するべきだとは思うが。今回については、先程のような報告を出すことを前提に承認した。
海老	3人(地図会計担当理事・幹事長・会計)が承認しているので、おかしいという声が加盟員から出たら、その3人には説明責任が生じることになってしまう。今回の件については、説明のしようがないと思う。
齋藤	本来は、幹事会決済が必要な金額の調査であるが、決済権限を下げるために20万円分は学連のお金を使用して、残りのお金を実行委員会に付け替えている形になる。
海老	それは会計監査に引っかかる程の問題である。
山川	改めたい。
海老	修正調査でお金がかかるのであれば、しかるべき決済を取らなければならない。20万円以上の事業ならば、幹事会で決済しなければならない。
大西	次回以降、このように20万円だけ承認するというようなことはあってはならない。
山川	それはしない。本当に今回だけということをお願いしたい。
海老	山川氏に向けて話しているが、今回は3人が20万円の事業の執行を承認している以上、その3人の責任でもある。承認する側も責任が生じるということを前提に、承認するか否かを考えなければならない。
齋藤	今後は、9月の幹事会の前にミドルセレクションのトレインが決定しているようであれば、幹事会前に一度トレインの下見をお願いしたい。今回に関して、例年は20万円で収まる程度だから、3週間前程度からトレインに入れば十分等と考えていたのだろう。何ヶ月か前にトレインに入っておくだけで、トレインの状況が事前に分かるため、今回のようなことにはなりにくいだろう。
大久保	話が戻るが、今年度第1回幹事会の際、修正事業の申請の内容として、矢板地域につ

	<p>いての今度のためのバックアップと記載してあったが、この程度の申請は会計として却下してしまっても良いのだろうか。</p>
<p>山川 新粥</p>	<p>却下して良い。こちらとしても、内容を具体化して申請したい。</p> <p>提案として、日光・矢板のトレイン整備を名目とするならば、年度の初めにどこを修正調査するかを予め提示・申請して、それにセレクションが乗っかる形にすればよいと思う。セレクションでそれ以外のトレインを修正してほしいのであれば、実行委員会側から新機軸事業を打診してもらう形にするべきである。</p>
<p>大久保</p>	<p>どこを修正すべきか決めるための判断材料は、山川氏から直接加盟校に伝えるなり、先程の報告書に関連して、学連が広報するなりして集めることができる。</p>
<p>五味</p>	<p>新機軸事業については以上で終わりにしたい。</p>

13. 事務局関連費用について	
<p>－背景－</p> <p>現在の加盟員ではないインカレ実行委員会が破損させた事務局の風呂に関して、山川氏の家庭の事情によってリフォームを行うこととなり、その代金を今の学連が負担するのは納得がいかない、といった旨の意見が事務局に寄せられた。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>山川氏から、事務局リフォームに関する詳細な報告がなされた。それを受け、事務局リフォームの予算執行に関して協議した。</p>	
<p>－結論－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の建物は山川氏個人の所有物であり、学連がそこを間借りしているため、学連は事務局リフォーム代金を負担する義務がある。 ・事務局リフォーム費用 15 万 500 円を学連会計から支出することを承認した。 	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
新粥	加盟員ではないインカレ実行委員会が破損させた事務局の風呂の修理代を、学連が出すのはいかなるものか、という問い合わせがあり、この問い合わせに対して、幹事会としての回答をしたい。山川氏が学連に対して修理代を請求した際、正確な金額は提示されず、後で相殺するという形になった。それは透明な会計とは言い難いと思うので、事務局のリフォームによって正確にいくら使用したか、またリフォームするに至った理由及びその負担を学連が負うべき理由を山川氏に聞きたい。
山川	リフォーム費用は 15 万 500 円である。
新粥	まず、認識としては、学連の加盟員ではない人が、学連資材を置くために使用していて、リフォームしなければならない状況になったと理解しているが。
大西	その認識は少し違っている。荷物を置いたりしていたのは学生 0B であったので、学生（学連）側の責任と考えた方が良いと思う。
齋藤	そもそも、どのような破損状況だったのか。
大西	昔に自分が見た限りだと、事務局にインカレの資材が溢れかえっていて、歩く場所もない状況だった。風呂場のバスタブの中にも荷物が積まれていた。結局、そのようなことを繰り返していた学生 0B によって、風呂が使えなくなってしまったのなら、学連の責任と言えると思う。
山川	風呂にインカレ資材が積まれて泥だらけになり、風呂が埃っぽくなり、給湯器や電気系統が壊れ、素人では手に負えなかったため、専門業者に依頼した。それを全て直して、15 万 500 円の修理代となった。
大西	数々の学生 0B0G の人が、インカレが終わった後、荷物を投げ込んでいく、という状況が続いたことが、事務局のリフォームの原因となった。
五味	基本的にこの議題は、リフォーム費用を払いたくない、ということではなく、しっかりと説明を山川氏からいただきたいということである。

齋藤	資料を見たところ、もともと事務局はそういう前提で使われていたものではないのか、ということや、今回そこに山川氏の親族が入る関係で急遽修繕を行い、そのままの用途で使用を続けていたら払う必要のない費用を学連に請求するのはどうなのか、ということも論点だろう。
新粥	それは、論点2の方になる。
山川	そのことについて回答したい。まず、学連は法人ではなく、任意団体であるため、人格が無い。人格が無い場合、法的な契約は一切できない。新粥が作成してくれた資料で間違っている箇所があり、共用目的で事務局を借りているということが間違いである。学連の人格を、山川が肩代わりして、事務局を学連に間借りさせているということが正しい理解である。
新粥	そうすると、山川氏の都合でも学連がお金を出すということで良いか。
山川	そうなる。何かあった時に責任を取るの、事務局の名義を貸している山川となる。今までは、ジェネシスマッピングのこともありお金が無かったので、山川個人の資産を学連に間借りさせていたが、山川がいなくなった場合は個人財産となるため、学連が使用するためには相続人と交渉しなければならない。それでは大変だと考え、自分の夢もあって、山川ハウスを作った。自分の儲けた金は会社の資産という形にし、会社を引き継ぎさえすれば、資産等を学連として使用できるようになる、といったビジョンで今までやってきている。そもそも事務局は、山川の個人資産である。法的に言うと、一時的に自分の資産を守る権利がある。事務局を学連に間借りさせている間、学生OBOGがインカレ後に事務局に荷物を積んでそのまま帰ってしまう、ということは仕方のないことだと考え、我慢していたが、最近、事務局の近くに勤める身内が現れたため住んでもらうことにした。不動産は放置すると資産価値が下がり、さらに事務局は埃まみれで放置されていたため全く価値が落ちてしまっている。別の人に住んでもらってお金を取るというより、住んでもらうことによって資産価値を回復させようとしていて、一時的に自分の資産を守っている状態である。基本的に、事務局は山川が好意的に貸しているものであり、山川の都合で決めて良い、というのが法的な正しい解釈だと思う。壊したものに関しては、当然弁償するべきである。
新粥	これ以外に聞きたいことはあるか。
大久保	山川氏のご好意で貸していただいているということで聞きにくいことではあるが、山川氏の親族が住み始めて以降の家賃は払い続けることになるのだろうか。また、リフォームとの相殺で、一部学連にお金が戻ってくるのだろうか。
山川	それほどリフォーム費用が掛からないならば、学連にお金を戻そうと思っていたが、今年度分で学連が払う必要のない家賃とほぼ同じ額になってしまった。今年度支払ってもらった月5万円の家賃の内、親族が住んだ5ヶ月間に関しては、月2万円を資材関係の倉庫代として受け取り、月3万円を使用していない分として学連に返そうかと思っていた。しかし、返す予定の3万円×5ヶ月=15万円とリフォーム費用15万500

	円がほぼ同じ額となった。
大久保	返却分の家賃とリフォーム費用がほぼ相殺されてしまったが、年度末には正確に精算するという認識で良いだろうか。
山川	それをお願いしたい。
新粥	他に何かあるか。私個人としては、言ってくださった加盟員の方へ説明しなければならないので、今山川氏がおっしゃったことを書面にまとめてもらって、次回幹事会で承認したいと思っている。幹事会として承認した、という形を取りたい。
山川	新粥が説明しても良いのではないか。
新粥	私としては、その加盟員に、山川氏がおっしゃったことをそっくりそのまま伝える、ということが難しいと感じたので、加盟員が納得するように山川氏本人が文面を作って頂ければと思う。
五味	議事録を読んでもらうのではダメなのか。山川氏個人の所有物であり、学連がそこを間借りしていたということが伝わればよいと思う。リフォーム費用を学連が負担することについて、幹事会の承認を取るのであれば、この場で取ればよい。承認が取れば、山川氏による説明がなされた上で、幹事会の承認が得られたということで、その加盟員の方への説明責任が果たせたことになると思う。 これまでの説明を踏まえたうえで、山川氏に提示していただいた事務局リフォーム費用を、学連会計から支出することを承認する幹事の方は挙手を願いたい。(→挙手多数)では、相殺の形となるが、リフォーム費用を山川氏に支払うこととする。

14. 事務局移転の検討	
<p>－背景－</p> <p>事務局の実質退去に伴い、学連の郵便物の管理に学連に関係ない人を挟むことになる点や、事務作業の効率性が下がる点を考え、事務局の移転が提案された。移転先の案としては、事務担当者自宅、山川ハウスが挙げられ、私書箱使用の案も挙げられた。</p>	
<p>－議論の概要－</p> <p>事務局の移転案に関して協議した。</p>	
<p>－結論－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹事会が事務局の山川ハウスへの移転を希望している旨を、河合会長に伝える。 ・基本的に、山川氏が事務局宛の郵便を転送する。山川氏が長期間山川ハウスを空ける場合は幹事会に連絡をするとともに、長期間山川ハウスが空かないよう対応する。 ・山川氏が不在の時に、緊急で事務局(山川ハウス)に行く必要が生じた場合、従来通り事務局長または事務局員が事務局に行くこととする。 	
<p>－発言内容－（敬称略）</p>	
山川	事務局移転について、事務局の住所を個人宅にしない方が良い。先程も話したように、何か問題が起きた時には、その人の責任となってしまう。
五味	責任を負うのが学生になるのは良くないということであるか。
山川	そうである。実際の選択肢としては、事務局の住所は今のままで書類を転送してもらうか、山川ハウスにするかといった所だろう。
新粥	私としては、学連の郵送物の管理に学連に関係のない人を挟むのはどうなのか、ということをお聞きしたかった。
山川	事務局の住所を山川ハウスに移すのは大丈夫である。学連の格に関する問題なので、最終決定は幹事会ではなく、会長決済となる。
新粥	ではここで話して、会長にお伝えするという事ですか。
山川	そういうことになる。
大久保	ちなみに、山川ハウスが事務局の所在地になった場合の郵便物はどうするのか。
山川	届いたらすぐに転送する。
大久保	それは例えば、電子振替の通知等の郵送物は、会計の住所に転送されてくるということですか。
山川	そうする予定である。
新粥	一つ聞きたいのだが、山川ハウスが空くことはあるのか。
山川	ひと月程度空くことはあるが、鍵は置いてあるので、誰でも行くことができる。
五味	遠くて、物理的に行くことが困難であると思う。
新粥	ひと月程度山川ハウスが空くことによって生じる問題に、どう対処したら良いだろうか。
山川	何月頃に重要な書類が来るということは把握しているので、その頃はしっかり郵便物をチェックする。

新粥	急に事務局の資材を使う等の必要が出た場合はどうするか。
山川	それについては、連絡を受け次第早急に対応する。
大久保	そういうことではなく、例えば、以前ソフトバンクの解約手続きを行おうとした際、ソフトバンクの方から、至急書類を送付するよにとの連絡が事務局に来ていたが、その郵便物を見過ごしていて解約できなかったことがあった。そういったイレギュラーな対応の郵便物等が来た場合はどうするか、という話である。
山川	あまり山川ハウスを空けないようにするというのが現実的な対応かと思う。
大久保	従来の事務局の郵便物の確認の際も、なるべく頻繁に事務局に確認しに行く、ということしかできなかったのも、その対応で仕方ないと思う。
新粥	急な郵便物等、学連関係で何かあった時に、山川氏にできるだけ対応していただくという言葉が聞けたので、山川ハウスに移転するとなった場合は、そうすることになると思う。続きの話になるが、実際、来年度から事務局を山川ハウスなり別の場所に移した方が良いだろうか。
山川	事務局は現状のまま郵便物を転送してもらおうか、山川ハウスに移転するかは幹事会で希望を取ってもらい、最終的には会長に決めてもらうということが良いだろう。
齋藤	所在地はそのまま、郵便物の転送届を出して、別の届け先を指定するのはダメなのか。外部向けの住所としては現在の事務局の住所のままで、転送先を事務局長の自宅にすることができるのではないかと。郵便局に問い合わせしてみないといけないが。
新粥	その対応で良いとは思った。現状は、事務局長または事務局員が1ヶ月に1回以上の頻度で、事務局に確認に行くことになっている。
山川	山川ハウスへはそれ以上の頻度で行くと思う。
齋藤	調べてみたが、転送は使えないようだ。
新粥	従来は、緊急の要件があった場合にも対応がしやすいように、事務局のある関東から事務局長を出す流れになっていて、実際に緊急の要件のときにすぐに事務局に行くことにしている。事務局が山川ハウスに移転することで、それが困難になるのはやはり心配である。
五味	学連の郵便物を外部の人を挟まずに扱うためには、転送サービスが使えない以上、事務局を移転することとなるだろう。事務局長の個人宅にしない方が良いということなので、移転するなら実質的に山川ハウスしか選択肢が残っていない。
山川	基本的にJOAや渉外先からの連絡しか事務局に来ないだろう。
大西	緊急の問題として起こり得ることが、それほど思い当たらないが。
齋藤	何かあった時の対応さえ決めていれば良いと思う。
新粥	緊急で山川ハウスに行かなければならなくなった時には、これまで以上に移動等の負担はあるが行くしかないだろう。
坂野	私書箱の検討はしていないのか。外面は山川ハウスを住所にしていて、郵便物だけ別の住所に送ってもらうように、ホームページ上で案内する等すると良いのでは。

新粥	それは良いかもしれない。
小泉	いずれにせよ、住所自体は山川ハウスになるだろう。
五味	山川氏が長期的に山川ハウスにいなくなるということになったら、ひとまず連絡をもらうようにしたら良い。
山川	その場合は基本的に誰かに山川ハウスにいてもらうよう頼む予定である。
大西	後は、所在地を変える手続きをしないといけない。
山川	任意団体なので、特に手続きなどは無い。
大西	口座などに関しては、住所変更の通知が必要だと思う。
大久保	それに関しては、年度が変わってから、山川ハウスの最寄りの金融機関で住所変更をやっていただければと思う。
新粥	では、事務局を山川ハウスに移転するということを幹事会の希望とし、河合会長にお伝えすることに関して承認を得たい。細かい事務作業は事務局、会計、山川氏との間で進めたい。
五味	山川ハウスに事務局を移転する希望を河合会長に伝える、ということ承認する方は挙手を願いたい。(→全会一致)では、そうしたい。

15. 後援申請報告	
— 議論の概要 — 後援申請を承認するか審議した。	
— 結論 — 以下の大学主催大会に関して、後援申請を承認した。 ・ 第 32 回金沢大学大会 ・ 第 38 回東大 OLK 大会 ・ 第 10 回岩県大会	
— 発言内容 — (敬称略)	
新粥	基本的には特に問題は無いが、金沢大学大会がかなり期限を破って申請をしてきた。
高橋	大変申し訳ない。
新粥	3 月開催で、6 ヶ月前が提出期限のところ、3 ヶ月期限を超過して 12 月に申請が来た。
五味	後輩にはかなり叱った。後援申請が通らなくても致し方ないと思っている。
新粥	今回考えることとしては金沢大学大会をどうするか、くらいだろう。では第 10 回岩県大会の承認からいきたい。岩県大会の後援申請書について意見のある方はいるか。岩県大会の後援に承認される方は挙手を願いたい。(→全会一致)
	次に、第 32 回金沢大学大会に関して、後援を承認しても良いという方は挙手を願いたい。(→挙手多数) では、承認させていただき、何らかのペナルティに関しては、インカレ実行委員会の裁量に任せたいと思う。金沢大学大会の後援申請書について何か意見はあるか。
	賛助会員への特典が、協議中となっているが。
	それは決まり次第きちんと報告していただくという形にしたい。
	東大大会に移りたい。
大西	800 人というのは多い気もするが。
大久保	赤城の東大大会は事前申し込みが 700 人程度だったので、当日参加や体験も含めると 750 人程度にはなるので妥当かと思う。
新粥	第 38 回東大大会の後援を承認される方は挙手を願いたい。(→全会一致) では承認としたい。

16. 会計について	
－背景－ 現在、春インカレの黒字が積み上がっている状態である。	
－議論の概要－ 春インカレの黒字分を有効活用できないか協議した。	
－結論－ 将来何かあった場合に備えて、春インカレの黒字は積み上げたままにする予定である。	
－発言内容－（敬称略）	
大久保	会計については、特に何かを話すわけではなく、春インカレの黒字がこの2年で200万円以上積み上がっているため、有効な使い道は無いか意見を募ろう、ということで議題に挙げさせてもらった。昨年の春インカレに関しては140万円程度黒字が出ている。黒字を少なくすれば良いということでもないと思うがどうだろうか。
新粥	参加が高いという声もあったりするので、一定の限度でインカレに参加した各加盟校にお金を返すというのはどうだろうか。
田中(基)	インカレに1000人来て、140万円分を返すとしても、1人1400円程度にしかならない。
山川	何か不始末があった時等のために、インカレの黒字分はあっても良いのでは。
大久保	では当面、黒字が出てお金が積み上がるという状態でも良いだろうか。
五味	学連のお金は積み上げておいた方が、将来のためになるだろう。以上である。

17. スキーオリエンテーリング委員会報告	
<p>ー背景ー</p> <p>2016年2月開催の世界学生スキーオリエンテーリング選手権に選手を派遣するため、学連のスキーオリエンテーリング委員会を創設した。</p>	
<p>ー報告の概要ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキーオリエンテーリングが、2019年のユニバーシアードの一種目になったため、オリエンテーリングの普及を見込み、スキーオリエンテーリングに力を注いでいる。 ・2016年2月開催の世界学生オリエンテーリング選手権大会へは、選手、役員合わせて9名が参加する。 	
<p>ー発言内容ー（敬称略）</p>	
木村	<p>スキーオリエンテーリング委員会は、学連とJOAのスキー0委員会が合同で活動している。2月10日から15日まで行われる世界学生スキーオリエンテーリング選手権に選手を派遣するため、学連のスキーオリエンテーリング委員会を創設した。我々は日本の学生のオリエンテーリングの代表組織であるということを標榜していて、オリエンテーリングという種目に関して、学生の代表を出す場合、学連から出すという形を取りたいと思っている。選手と役員は合わせて10名であり、選考会を行い資料に記載の選手を選抜した。残念ながら、私自身は都合で行けなくなったため、実際は9名で世界大会に出場する。費用に関しては、学連の会計からは支出を求めない形とし、原則自己負担である。ただ、多くの支援金が集まっていて、JOAのスキーオリエンテーリング委員会から各種補助金を申請し、受け取る算段をしている。また、クラウドファンディングというもので、目標金額80万円を集めている。これらが基本的な報告である。なぜスキーオリエンテーリングの日本代表を頑張っているかということ、一言で言うとオリエンテーリングの普及活動の一環である。組織的には、ユニバーシアードや世界学生選手権はFISUという国際大学スポーツ連盟という所が主催している。その連絡はどこに来るかということ、JOC(日本オリンピック委員会)に来る、JOAはJOCに加盟しており、学連はJOAの一会員という形にされている。FISUから学連まで組織的に繋がったと言え、実はJOCはIOCにも加盟しているため、学連はIOCにも繋がっている。重要なのは、JOCが派遣する日本選手団は、国際マルチスポーツイベント、つまり大きい会場で、色々な種目が一堂に集まる大会にしか派遣されていない。FISUが主催する世界学生オリエンテーリング選手権大会のような種目別世界選手権にはJOCは派遣を行っていない。オリエンテーリングは今のところIOFが主催する世界大会と、FISUが主催する世界学生選手権という個別の大会しかないが、スキーオリエンテーリングはなぜか2019年のロシア大会でユニバーシアードの一種目になった。ということで、我々は、JOCを通じて日本選手団の中にオリエンテーリングの選手を入れたいと目論んでいる。それによって、日本でも世界でもオリエンテーリングがスポーツ界で認知されて、色々なメディアにのることを願っている。その一環とし</p>

五味	て今回のスキーオリエンテーリング委員会の活動を行っている。報告は以上である。では、次に行きたい。
----	--

18. 技術委員会報告	
<p>— 報告の概要 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/6(土)学連合宿を開催する。 ・ 世界選手権大会の選考基準を設定した。 ・ HIS 担当者との話し合いを行った。 ・ 理事会の方でシード選手を選考中である。 	
— 発言内容 — (敬称略)	
大西	<p>1 つ目について、今年度は技術委員会内での人手の問題などで、学連合宿の開催が厳しい現状があり、2 月 6 日の一度だけになってしまった。来年度についてどうしていくかが課題となってくると思う。</p> <p>2 つ目については、ハンガリーで開催の世界学生選手権大会に関する詳細な選考基準を設定し、技術委員会ホームページに掲載した。各地区学連で加盟校に周知してほしい。資格がある人にはぜひチャレンジしてもらいたいということを宣伝してほしい。</p> <p>3 つ目について、先程の世界学生選手権大会に関して、渡航手配をさせてもらいたいと HIS の方から提案があり、直接会って話を聞いてきた。選手派遣のとりまとめを HIS のスポーツ部門がやっている形で、オリエンテーリングにも目をつけてもらえららしい。世界選手権に行くときの航空券を手配し、選手の交通や宿等の管理をし、個人手配のトラブルを軽減できるとのことだった。しかし、オリエンテーリングは宿と交通を主催者が手配してくれることが多いので、その他具体的に HIS に手伝ってもらうこととしては航空券の手配くらいになってしまう。国内についても機会があればお手伝いをするとされたが、その辺りは具体的な話をすると技術委員長で決められる範囲を超えてしまうので今回話は進めなかった。国内の学生の合宿手配等の手伝いも出来るということだったので、各加盟校で興味があるところがあれば、HIS の担当者の連絡先等を教えられる。</p> <p>4 つ目については、現在理事会の方でシード選手を選考中であることをお伝えする。以上である。</p>

19. 理事会報告
ー活動内容ー ・ シード選手選考の実施

20. 各部局活動報告
・ 会計
ー活動内容ー ・ 加盟金の受取り ・ 追加加盟登録費の受取り ・ 春インカレ運営資金 150 万円の貸付け ・ 秋インカレ貸付金の受け取り ・ 昨年度の賛助金のフィードバック ・ JOA の年会費の支払い ・ ファミテックの広告費の支払い
・ 事務局
ー活動内容ー ・ 追加学連登録の受付 ・ 追加の加盟登録の受付 ・ 後援大会の報告書等に関する手続き ・ 後援申請の受付 ・ 加盟員からの意見を受けた上での幹事会発議
・ 事業部
ー活動内容ー ・ 第 3 回幹事会の会場及び宿の確保 ・ 春インカレ後夜祭及び講習会のホームページの立ち上げ ・ 後夜祭会場の確保
・ 広報
ー活動内容ー ・ 第 2 回幹事会議事録の作成 ・ 第 63 回総会議事録の作成 ・ twitter での広報
・ 普及部
ー活動内容ー ・ 賛助会員登録 ・ インカレ観戦ガイドの作成

・ 渉外部	
－活動内容－	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月から3月10日までの矢板・日光トレイン申請の受理 ・ 回覧書の送付及び区長への連絡 ・ テレイン申請方法の改正 	
－発言内容－（敬称略）	
橋場	矢板幸岡のトレイン申請の際に区長に連絡した所、幸岡のトレイン内の主要道を通るオリエンティアを車で引きそうだ、という苦情が行政区の会議で出たことを聞いた。それに対して、何か看板を立ててくれと言われたが、それは少し厳しいので、使用する団体に対して注意を促すよう周知を徹底したい。
山川	それに関しては、自分の方でもメニュー内容をチェックして、注意喚起したい。
橋場	その辺りも渉外部の方で詰めて注意喚起する。

21. 地区学連活動報告
・ 北東学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/18(日) 東北大学大会 ・ 10/25(日) 岩県大会 ・ 12/20(日) 関東・北東・北信越合同ミドルセレクションの実施 ・ 12/20(日) 北東学連総会の開催 <p>—今後の予定—</p> <p>北東学連では規約改正の承認済み。次回幹事会で資料提出・採決予定</p>
・ 関東学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/10(木) 第3回関東学連総会の開催 ・ 12/20(日) 関東・北東・北信越合同ミドルセレクションの実施 <p>—今後の予定—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/7(日) 山リハリレーを使用して関東インカレ団体戦を実施 ・ 2/7(日) 第3回関東学連臨時総会の開催 ・ 2/19(金) 第4回関東学連総会の開催 ・ 3/2(水) 中止となった関東学連新人戦の再開
・ 北信越学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/25(日) 新潟大学大会の開催 ・ 11/29(日) KOLC大会を使用してミドルセレクションを実施 ・ 12/20(日) 関東・北東・北信越合同ミドルセレクションの実施
・ 東海学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/26(土) 東海学連冬合宿 ・ 12/26(土) 東海学連総会の開催 ・ 12/27(日) 東海学連ミドルセレクションの実施 <p>—今後の予定—</p> <p>ミドルセレクション規約を改定済み。スプリント規約作成済み。 次回幹事会で資料提出・採決予定。</p>
・ 関西学連
<p>—活動内容—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/6(日) 関西学連ミドルセレクションの実施 ・ 12/6(日) 第4回関西学連総会の実施 ・ スプリントセレ規約及びスプリントセレ推薦規約の作成

－今後の予定－

上記規約が2/14(日)に承認される予定。次回幹事会で資料提出・採決予定。

・中四国九州学連

－活動内容－

11/15(日)岡山県民大会を使用してミドルセレクションを実施

22. 次回幹事会について

次回幹事会は3/10(木)に開催。

もし幹事会が時間通り終わらなかった場合は、後夜祭前に追加で行う。